

令和元年度

入賞作品集

「少年の主張」
中学生
話し方大会

「家庭の日」
に関する
作文・図画



広島県の青少年の
マスコット
ゆっぴー

公益社団法人青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

は じ め に

「少年の主張」・中学生話し方広島大会 2019（第 41 回「少年の主張」広島県大会，第 53 回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で，令和元年 9 月 7 日（土）に開催しました。

今大会には，県内中学校の 44 校から 3,430 編の応募があり，その中から原稿審査を通過した 23 名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては，家族，学校，日常生活，地域だけでなくいのちの問題と大変多岐にわたっており，そこから得た体験や感想を基に掘り下げて自分の意見を作り出している人が多かったように思います。そして自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に生かしていく流れです。態度は，非常に落ち着いて静かであるけれども熱意のこもった胸に響くような話し方ができていました。

この作品集には，発表者全員の顔写真と，その中で特に優秀な成績を修めた 12 人の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校 54 校，中学校 38 校から作文・図画を合せて 2,034 作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと，家族に感謝している心や存在の大切さなど，自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文 30 作品，図画 337 作品を厳正に審査し，特選作文 3 作品，特選図画 1 作品，入選作文 19 作品，入選図画 5 作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，公益財団法人広島青少年文化センター及び県内 13 ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月

公益社団法人青少年育成広島県民会議

会 長 上 田 宗 岡

「少年の主張」に関する目次

○第41回「少年の主張」広島県大会・第53回中学生話し方大会会場風景	1
○第41回「少年の主張」広島県大会・第53回中学生話し方大会発表者一覧	2
○受賞者一覧	
広島県知事賞	
生きる意味	東広島市立西条中学校 3年 <small>にしむら</small> 西村 <small>ゆう</small> 悠 …… 5
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	
楽しんでね!	広島市立国泰寺中学校 2年 <small>こばやし</small> 小林 <small>もか</small> 百花 …… 6
広島県中学校話し方連盟会長賞	
たった一つの命を守るために	熊野町立熊野東中学校 3年 <small>いとう</small> 伊藤 <small>ゆうき</small> ゆうき …… 7
国際ソロプチミスト広島会長賞	
心は最高の仕事道具	大崎上島町立大崎上島中学校 2年 <small>ともまつ</small> 友松 <small>ちひろ</small> 千尋 …… 8
広島清流ライオンズクラブ会長賞	
後悔を越えて	三次市立布野中学校 3年 <small>まるかわ</small> 丸川 <small>たいじ</small> 大慈 …… 9
優 秀 賞	
「もったいない」から生まれる笑顔を	広島市立井口中学校 3年 <small>くぼた</small> 窪田 <small>あかり</small> 愛花理 …… 10
平和な世界を築くために	三次市立塩町中学校 3年 <small>にい</small> 新居 <small>みなみ</small> 南海 …… 11
世界観を広げる	北広島町立千代田中学校 3年 <small>かわうち</small> 河内 <small>のあ</small> 乃愛 …… 12
繋がれた縁	広島市立亀山中学校 3年 <small>なかむら</small> 中村 <small>ゆな</small> 優那 …… 13
私の妹	尾道市立重井中学校 2年 <small>ながかわ</small> 永川 <small>ちはる</small> 千晴 …… 14
部活を越える	広島市立白木中学校 3年 <small>ふくしま</small> 福島 <small>まさひろ</small> 誠啓 …… 15
食品ロスを減らすために	竹原市立賀茂川中学校 3年 <small>ますだ</small> 益田 <small>じゅの</small> 珠野 …… 16
	(発表順)
○講 評	
審査委員長 山本 名嘉子 東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長	17
○第41回「少年の主張」広島県大会・第53回中学生話し方大会開催要領	19
○審査員及び審査基準	21

「家庭の日」に関する目次

特選（広島県知事賞）

●作文の部

家ぞくの音	東広島市立寺西小学校	2年	いちいりかこ 市位里佳子	22
思い出の鉛筆	広島市立五日市中学校	1年	いのうえ 井上 咲希	23
私の家族	広島市立瀬野川東中学校	1年	せがわ 瀬川 夏愛	24

●図画の部

じいじのすいかがとってもおいしかったよ。 三次市立みらさか小学校	2年	たかはし 高橋 悠菜	44
----------------------------------	----	---------------	----

入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

●作文の部

おかあさんのくちぐせ	広島市立牛田小学校	1年	いのうえさくたろう 井上朔太郎	25
ぼくのかぞく	尾道市立向島中央小学校	1年	たくぼ ひなた 田窪 心暖	26
じいちゃんのさいごのはちみつ	福山市立御幸小学校	2年	おがた ひより 緒方 陽和	27
かぞくみんなでこめづくり	三原市立糸崎小学校	2年	とよしま けいご 豊島 圭吾	28
ぼんおどりを楽しむぼくの家ぞく	東広島市立西条小学校	2年	ふる やしきありと 古屋敷有人	29
ぼくの家ルール	東広島市立三ツ城小学校	3年	ふる た はるひろ 古田 知大	30
母に伝えたい「ありがとう」	東広島市立三ツ城小学校	4年	たかまつ 高松ひなた	31
はなれていても感じる家族愛	東広島市立小谷小学校	4年	ながみ こころ 永見 心	32
思い出の登山	東広島市立寺西小学校	5年	きき つこうき 喜々津輝季	33
家族のきずな	東広島市立西条小学校	5年	ふくはら のあ 福原 希空	34
ひいじいちゃんの赤い梅	広島市立宇品小学校	5年	ふじい まお 藤井 舞桜	35
兄の背中	竹原市立竹原中学校	1年	かい はるま 甲斐芭瑠真	36
家族の夢を叶えた妹	東広島市立中央中学校	1年	かわの としまさ 川野 稔真	37
寮生活をして気づいたこと	広島県立広島観智学園中学校	1年	くろぎ たまえ 黒木 碧恵	38
一つ	呉市立東畑中学校	2年	ともしげ か な こ 朝重佳奈子	39
もしも…	広島市立五日市中学校	2年	ながい すず 永井 珠々	40
今を精一杯生きる	東広島市立中央中学校	2年	ほうじょう はな 北條 羽菜	41
感謝の気持ち	東広島市立松賀中学校	2年	むかい あさみ 向井亜紗実	42
理想の家族	広島市立牛田中学校	3年	やましる れん 山城 蓮	43

●図画の部

しまねけんのたきをみにいったよ。 福山市立西小学校	1年	さかぐちり おな 坂口莉央夏	45
家族のおうえんで、乗れたターザンです。 福山市立御幸小学校	3年	さん な りほ 山南 璃歩	45
いとこの赤ちゃんと花火をしたよ。 東広島市立西条小学校	3年	みやのぶ そうだい 宮信 聡大	45
家族みんなでバーベキューをしました。 呉市立昭和北小学校	4年	なかもと としや 中本 利埜	45
みんなで一緒に食べるご飯が1番おいしい。 福山市立鳳中学校	3年	ふじわら はるな 藤原 春奈	45

令和元年度「家庭の日」作文・図画募集要綱	46
----------------------	----

審査員名簿及び審査要領	47
-------------	----

令和元年度応募校一覧	48
------------	----

「少年の主張」・中学生話し方大会 2019

日時：令和元年9月7日(土)10:00～16:00

場所：広島県社会福祉会館（広島市南区比治山本町12-2）



集合写真



大会開始前の客席



審査委員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

発表者一覧



基準
『やり直しボタン』

広島市立伴中学校
2年 ^{にした}新田 ^{まこ}真子



1番
『幸せのための第一歩』

広島市立矢野中学校
3年 ^{ひの}日野 ^{さくら}咲里



2番
『たった一つの命を
守るために』

熊野町立熊野東中学校
3年 ^{いとう}伊藤 ^{ゆうき}ゆうき



3番
『なぜ?尾道に若者が
多く来る理由』

広島県立広島中学校
2年 ^{まつばら}松原 ^{まさひで}正英



4番
『交通事故を
なくすために』

三次市立作木中学校
3年 ^{さじき}栈敷 ^{なえ}奈依



5番
『「もったいない」から
生まれる笑顔を』

広島市立井口中学校
3年 ^{くぼたあかり}窪田 ^{あかり}愛花理



6番
『「レジ袋はいりません」
この言葉の先に・・・』

庄原市立比和中学校
3年 ^{まつした}松下 ^{れお}玲旺



7番
『心は最高の仕事道具』

大崎上島町立大崎上島中学校
2年 ^{ともまつ}友松 ^{ちひろ}千尋



8番
『平和な世界を
築くために』

三次市立塩町中学校
3年 ^{にい}新居 ^{みなみ}南海



9番
『私は負けない』

三原市立第三中学校
3年 ^{きりたに}桐谷 ^{ひであき}英昭



10番
『世界観を広げる』

北広島町立千代田中学校
3年 ^{かわうち}河内 ^{のあ}乃愛



12番
『先輩から学んだこと』

三次市立甲奴中学校
2年 ^{やまさき}山崎 ^{かずや}和弥



13番
『自分を認める』

広島市立伴中学校
3年 ^{しもみ}下見 ^{まりん}真琳



14番
『車いすの祖母の
視点から見たこと』

庄原市立庄原中学校
2年 ^{ひらた}平田 ^{さいは}彩華



15番
『祖父と米づくり』

尾道市立御調中学校
2年 ^{ばんどう}坂東 ^{かずし}一志



16番
『ツナグ』

坂町立坂中学校
3年 ^{ほりうち}堀内 ^{あいら}愛良



17番
『僕たちの手で』

三次市立三良坂中学校
2年 ^{みつもと}光本 ^{なつき}夏樹



18番
『繋がれた縁』

広島市立亀山中学校
3年 ^{なかむら}中村 ^{ゆな}優那



19番
『私の妹』

尾道市立重井中学校
2年 ^{ながかわ}永川 ^{ちはる}千晴



20番
『部活を越える』

広島市立白木中学校
3年 ^{ふくしま}福島 ^{まさひろ}誠啓



21番
『楽しんでね!』

広島市立国泰寺中学校
2年 ^{こばやし}小林 ^{もか}百花



22番
『食品ロスを
減らすために』

竹原市立賀茂川中学校
3年 ^{ますだ}益田 ^{じゅの}珠野



23番
『後悔を越えて』

三次市立布野中学校
3年 ^{まるかわ}丸川 ^{たいじ}大慈



24番
『生きる意味』

東広島市立西条中学校
3年 ^{にしむら}西村 ^{ゆう}悠

11番 欠席
『私の住む町～向島の良いところ～』

尾道市立向島中学校 1年 ^{きそ}木曾 ^{かんな}栞菜



生きる意味

東広島市立西条中学校

3年 ^{にし}西 ^{むら}村 ^{ゆう}悠

皆さんにも大切な人がいますね？もし、その大切な人の「人生の最後」が近づいてきたら、皆さんはその大切な人に何がしてあげられるでしょうか。

私は幸せなことに、ひいひいばあちゃんに会ったことがあります。100歳以上の天寿を全うした人でした。私が幼い頃、よくおばあちゃんの家に来て行ってもらいました。おばあちゃんの家に行くといつもお煎餅がたくさん入った缶がおいてあり、おばあちゃんは海苔で巻かれた醤油味の煎餅をくれました。私はその煎餅が大好きでした。私が何かでぐずっていると、決まっておばあちゃんは

「おや、まあまあ。」

と言って、煎餅をくれました。おばあちゃんは編み物も得意で、時間さえあれば編み物をしていました。私の家にはジンベエやひざ掛など、おばあちゃんの編み物であふれていました。私はおばあちゃんはずっと笑顔で、ずっと編み物をして、ずっと元気である人だと思っていました。

しかし、私が小学1年生の時、突然、おばあちゃんは天国へ旅立ってしまいました。私はお別れを言うことさえできませんでした。私は、私が海苔巻き煎餅を食べている絵を描いて、棺の中に入れました。そしてしばらく、布団の中にもぐって泣きました。

お葬式の日から、私は「死」について考えるようになりました。死ぬのは怖いのだろうか、痛いのだろうか。死ぬ前はどんな気持ちになるのだろうか。私もおばあちゃんみたいに100歳以上まで生きることができるだろうか。明日、死んでしまったらどうしよう。

怖くなって母に相談しました。その時母はこんなことを言いました。

「長生きって幸せか、不幸せか、どっちなんだろうね。ひいひいばあちゃんはね、もうあの年になるとお友達も減ってくるんよ。自分の娘のほうが病気で先に死んでしまったりね。それって辛いことだよね。」

私はそれを聞いて、ああ、そうだなと思いました。生きる事は「幸せ」「不幸せ」と隣り合わせなんだと思い、しばらく怖くて、同時にスッキリしませんでした。

そんなある日、私はネットで見たあるCMに心を奪われました。皆さんもきっと知っているでしょう。「たったひとつのたからもの」。小田和正さんの「言葉にできない」の歌声に合わせて、お父さんが6歳の幼さで亡くなった息子の秋雪君を懸命に抱きしめている写真が流れてきます。

心を引きつけられた私は、早速図書室で本を借りて読みました。秋雪君はダウン症という障害があり、また心臓の病気もあって、産まれてすぐに1年もいきられないだろうと告げられてしまいます。お母さんは頭の中が真っ白になったそうです。でも「ぼくは生きてるよ」と訴えてくる秋雪君の存在に、お母さんは秋雪君の命を守る戦いを始めたそうです。秋雪君は6年間生き、そして亡くなります。本にお母さんはこう書いています。「人の幸せは、命の長さではないのです。」この言葉で私は何年も抱えていた悩みが一気に解けたように感じました。人生の長さに関係なく、ひいひいばあちゃんも秋雪君も、与えられた日々を全力で生き、家族を助け家族に助けられ、周りの人に笑顔を与えました。もちろん誰だって長生きはしたい。でも、どれだけ生きたかではなく、どのように生きたか。それこそが生きる意味なのだと。

私は今、中学3年生です。日々死を意識して生きることは出来ませんが、いつか自分にも死が訪れるのだということを忘れずに、与えられた時間を、夢を追って、全力で挑戦し充実した日々を送っていきます。そして、おばあちゃんや秋雪君のように家族を笑顔に出来るよう生きていきます。それこそが私の「生きる意味」なのです。

公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞



楽しんでね！

広島市立国泰寺中学校

2年 小林 百花

「いってらっしゃい。楽しんでね！」

母は、いつも私が出かける前にこう言います。いつも当たり前のように聞いていたこの言葉ですが、ふと楽しむとはどういうことなんだろうと気になった日がありました。その時期はテスト週間で、毎回テストにプレッシャーを感じている私は心の中で、テスト週間なのに何を楽しめようと思おうと、笑顔で言う母にいらつき、「いってきます。」も言わずに家を出ました。その日はやはり一日中楽しい思いもしませんでした。家に帰ってから私は母に、

「いつも言っとる、いってらっしゃいの後の楽しんでねってどういう意味？」

と聞いてみました。すると母は

「学校も仕事も、気持ちが向かなくて行きたくない日もあるじゃん。それでも行かんといけん日もあるでしょ？ だったら、その中で自分が楽しいと思えることを見つけしてほしい。若いんじゃないか、今を楽しんで！」

と答えました。私は、母と学校での楽しみ方を考えてみました。例えば、休けい時間にクラス以外の友達にもたくさん話しかけてみることに、ノートは今よりもきれいにカラフルにまとめてみることに、今まで気が付かなかった学校での楽しみ方が、あふれて止まりませんでした。母と話しているうちに、自然と笑顔になりました。

私は翌日から学校で、母と話したことを実践してみました。数日経つと、前よりも他のクラスの友達が増え、苦手な教科にも集中できるようになりました。そして、たくさんの友達との話や、学校で楽しかったことを家族に話すことで、家での会話も増えました。

それから私は、母のあの一言の本当の意味に気づきました。それは、自分の考え方を試してみることで、何でも楽しむことができるということや、物事をプラスに考えることで、苦手なことや嫌いなことも「楽しい」と感じられるようになることです。今まで当たり前のように聞いていた母の一言に、そんなに深い意味が込められているとは思いませんでした。母の「楽しんでね。」の一言で、こんなにも自分の日常生活が変わっていることに驚きました。

それから私は、決めたことがあります。それは、プラスの事しか言葉にしないということです。心でマイナスな事を思ってしまうこともあるけど、それを言葉にせず、プラスに変換して伝えることにしました。

ある時友達が、

「テスト嫌だなー。」

と暗く言いました。ですが、私は決心したことを思い出し、

「でも、〇〇ちゃん得意な単元じゃん！」

と明るく返事をしました。すると、その友達は笑顔になりました。私が変わることで周りまで変えられるということを知り、とてもうれしかったです。

最近、私の周りには、「めんどくさい」、「だるい」という言葉が口癖になっている人が多くいます。マイナスな言葉を聞くと、やる気がなくなったり、気分が悪くなったり、周りまで暗くなってしまいます。良いことは一つありません。不満を言うのは簡単ですが、それを止めるには、自分の言葉で周りからどう思われるかを考えること、そして、意識してプラスの言葉を使うことが大切です。

私は幼い頃から、母の一言に支えられてきました。いつか私に家族ができたときには家族が出かける前に、母のように、

「いってらっしゃい。楽しんでね！」

と、元気良く言いたいです。そして、考え方一つ変えてみることで、自分の世界が変わる。楽しみが広がるということ、たくさんの人に伝えていきたいです。



たった一つの命を守るために

熊野町立熊野東中学校

3年 ^い伊 ^{とう}藤 ゆうき

「家族や家の周りは大丈夫？」

そうメールを送信した後に「既読」の文字がつくことはありませんでした。

西日本を中心に全国各地を襲った、平成30年7月豪雨。6日に起きた土砂災害で、私は大切な2人の友達を失いました。

私はその時家にいました。だから、周りの状況が分からず、土砂災害が発生したことを知ったのは、次の日のテレビニュースでした。朝起きると、窓から見えた景色に違和感を覚え、急いでリビングへ向かうと、土砂災害が発生したと報道されていました。「本当に熊野で起きたの?」「みんなは大丈夫だよな?」私は一気に不安になりました。「何かしないと!」という気持ちと、「何もできない」という実際の状況が入り混じって、どんどん不安になっていきました。災害の被害状況が毎日報道され、友達の安否も分からないまま、一日一日が過ぎていきました。そして、2人が亡くなったと知ったのは、数日後のことでした。災害が起きて、1週間もたっていないのに、私にはとても長く感じられました。

今までに味わったことのないくらい悲しい出来事で、気持ちも重く沈んでしまい、「もっと早く連絡しておけば…」と、何度も何度も後悔し、同時に失ったものの大きさに気付きました。

私は、この災害が起きてから、自分自身の生き方について考えました。私は今、何を目標に何を頑張っているのか、将来どうなりたいのか。

考えている時、亡くなった2人の友達と将来の夢について話したことを思い出しました。2人の夢は「プロサッカー選手になること。」しかし、夢を叶えることなく2人は亡くなってしまいました。彼らは夢を叶えられず、どれだけ悔しいのでしょうか。それでも、私たちは彼らの夢を継ぐことはできません。では、私たちが彼らのためにできることは何なのでしょう。

それは「毎日を大切に生きること」

私が考える大切に生きることとは、時間を大切に、人を大切に、言葉を大切に生きることです。

時間を大切にすることとは、限られた時間を自分にとってプラスになるように考えて使うこと、人を大切にすることとは、自分の行動で相手がどう感じるかなど、人の気持ちを考えて行動すること、そして、言葉を大切にすることとは、悪口や陰口といったマイナスの言葉を使わず、周りが明るくなるようなプラスの言葉を使うことです。これらを意識して生活することで、自分も周りも明るくなり、毎日「今日もよく頑張った」と、胸を張って終われると思います。だからこそ、毎日を大切に生きることが重要だと思います。

そして、私がこのように考えているとき、いろいろ考え、行動している人たちがいました。

地域では、何か自分たちにもできることはないかと考え、夏の日差しが照りつける中、積極的にボランティア活動に参加した人たち。

学校行事では、体育祭や文化祭で、亡くなった2人の分まで一生懸命練習に取り組んだクラスのみんな。

部活動では、亡くなった仲間と一緒に県大会へ出場しようと、厳しい練習にも歯をくいしばり、大きな声を出しながら頑張っていたサッカー部のメンバー。

そして私も、そんな人たちの姿を見て心を動かされ、今までなんとなくで考えていた将来の夢が大きく、はっきりとしたものになりました。私の夢は、災害に強く、豊かな暮らしができる街を作り、災害が原因で亡くなる人、それで悲しい思いをする人を一人でも多く減らすこと。自然災害を無くすことはできませんが、どうしたら災害による被害を小さくできるか研究したいと考えています。

この夢を叶えるには、まず勉強しなければいけません。高校、大学に進んで専門的なことを学ぶため、今は中学校の勉強をきちんと身に付けられるように頑張っています。勉強はどんどん難しくなると思います。でも、2人のためにも必ず夢を叶えます。

命を大切にしよう。

何度も耳にしたと思います。命は一つしかありません。また、自分の生き方を決めるのは自分自身です。

あなたならそのたった一つの命をどう生きますか?

国際ソロプチミスト広島会長賞



心は最高の仕事道具

大崎上島町立大崎上島中学校

2年 ともまつちひろ
友松千尋

「すべてはゲストのために」

これは、東京ディズニーランドで働いていたチャック・ボヤージンさんの言葉です。私は道徳の授業でこの言葉に出会いました。チャックさんは東京ディズニーランドで夜間清掃部門という、一見地味で夢の国とは無縁に思えるような仕事をしていました。しかし、チャックさんは自分の仕事に誇りを持ち、いつもゲストのことを一番に想って掃除をしました。私は掃除に対して「汚い」とか「めんどくさい」というイメージを持っていたので、清掃員としてここまで一生懸命掃除をするチャックさんを純粋に「すごい」と思いました。チャックさんほど熱心に掃除をする人を私は今まで見たことも聞いたこともありません。掃除一つにこれほど本気で向き合う人がいることにとても驚き、この道徳の授業は強く印象に残りました。

道徳の授業があった日の放課後のことです。この日、私が所属する卓球部が時間を守れなかったため、部員全員が掃除をすることになりました。私の担当は更衣室で、しかもたった1人での掃除でした。「掃除は嫌だな。」「早く帰りたい。」そんなことを思いながら、私は嫌々掃除を始めました。しばらくは「ざっときれいにすればいいや。」とダラダラと掃除をしていました。その時です。急に、今の自分が誰かに見られているような気分になりました。誰かいるのかと思い、後ろを振り返ってみると……。そこには誰もいませんでした。でもなんだか誰かに見られているようで、なぜかそわそわします。一体誰が……。はっと私の頭の中に、ある人が浮かんできました。その人はチャックさんでした。「めんどくさい」「帰りたい」と思いながら嫌々掃除する私の姿を、私の心の中にいたチャックさんがじっと見ていたのです。私はとても恥ずかしい気持ちになりました。たった数時間前に学んだ、掃除に一生懸命なチャックさんのあの姿を私はもう忘れてしまっていたのです。

私はもう一度思い出しました。ゲストのためを思い、自分の仕事に心から向き合うチャックさんの姿を。すると、自然と掃除をする手に力が入ってきました。私の掃除が人の役に立っている、チャックさんのように誰かの笑顔を作っている。そう思うと掃除がどんどん楽しくなりました。長いと感じていた掃除もあっという間に過ぎていきました。更衣室も、私の心もなんだかスッキリして、掃除が終わった後の達成感も大きかったです。

私は今まで「働く」というと大人になってからすることと置いていたけれど、決してそうではないということが分かりました。「働く」ことは何も難しいことではなく、普段学校でする掃除も「働く」ことで、今の自分に与えられた立派な仕事だと気がつきました。そして、その仕事にどのように向き合うかがそのまま未来の自分につながるのだらうと思いました。

遠くない将来、人工知能・AIによって今ある仕事の半分はなくなるともいわれています。そんな時代を生きる私たちにとって仕事をする上で大切なことは何でしょうか。私は「相手を想う心」をもって「働く」ことだと思います。道徳の時間に担任の先生が

「働くということは、傍が楽になるということです。」

と教えてくださいました。つまり、働くことは自分のためではなく、周りのためだということです。チャックさんのようにひたむきに相手を思い「働く」ことができるのは、心を持った人間だけなのです。

今、私にはまだ明確な将来の夢はありません。でも、たとえどんな仕事に就いたとしても、心から相手を思い、自分に限界を決めないで働きたいです。私の心の中のチャックさんに、いつか認めてもらえるその日まで。

広島清流ライオンズクラブ会長賞



後悔を越えて

三次市立布野中学校

3年 ^{まる}丸 ^{かわ}川 ^{たい}大 ^じ慈

「亡くなった人にもう一度会えます。」

そう言われた時、皆さんは誰を思い浮かべますか。僕の場合は祖母です。

僕の祖母はいつも笑顔を浮かべている人でした。僕が話す学校での出来事や本で読んだことなど、他愛もない話を楽しそうに聞いてくれて、僕はいつまでも祖母と話していました。帰り際には毎回必ず、「お父さんやお母さんには内緒ね。」そう言ってお小遣いをくれました。そんな優しい祖母が大好きで、祖母に会いに行く日をいつも楽しみにしていました。

しかし、祖母も年を重ね、病気を患ってからは自由に動くことが難しくなり、寝たきりの状態になりました。話すことも少しずつ難しくなり、僕が話しても上手く答えが返ってこないことが続きました。大好きだった祖母が別人になってしまうような気がして、次第に祖母に会いに行くのが嫌になっていきました。

今でも忘れない7月の暑い日。僕が賞状をもらったので、父に連れられ入院した祖母に見せに行きました。「ばあちゃん、見て、すごいでしょ。これね、…」祖母はニコニコ笑って見守るだけで、しゃべることはありません。そんな祖母と向かい合っているうち、僕の胸には、怒りなのか悲しみなのか、自分でもよくわからない感情があふれ出しました。

「何でも言ってくれんの。昔のばあちゃんならもっといっぱいほめてくれたのに。」そう言って僕は祖母の前から逃げ出しました。

駐車場で待っていた僕に、父が1枚の紙を差し出しました。その紙にはこう書いてありました。「大慈といっぱい話がしたいけどそれができなくて残念です。ダメなばあちゃんでごめんなさい。大慈はばあちゃんの自慢の孫です。頑張ってるね。」

病気のせいで手が震えていて、ぐちゃぐちゃな文字で書かれた手紙。父は、「ばあちゃんはもうほぼしゃべれんようになってしまったけど、大慈と話がしたいけえ、必死に文字の練習しとったんよ。」と教えてくれました。

僕がひどい態度で当たっても、嫌な思いをさせても、僕にはいつも笑顔を向けてくれていた祖母。僕は祖母がどんな思いでいたかを考えようともしませんでした。申し訳なさでいっぱいになった気持ちを、次に会う時、必ず伝えよう。そう心に決めました。しかし、その思いがかなうことはありませんでした。一週間後祖母の容態は急変し、永遠の別れとなったのです。

祖母との別れは、強く後悔として残りました。もしもあの時、どうしてあの時。ふとした時に祖母の顔を思い浮かべてそう思う日が続きました。それと同時に、もう同じ後悔はしたくない、後悔をしないために僕はどうすればよいのだろう。その答えを探しながら過ごしていました。

今、後悔を越えて、心に刻んでいることは二つです。一つは、月並みだけれど、相手の思いを考え、受け止めること。僕は、自分の思いを伝えたいという気持ちが先に立ってしまいがちでした。「相手の思い」を考えることは簡単なようで難しいことです。そんな時は、相手の話を聞き、相手を知る。そのことから始めようと思います。もう一つは、困っている人に寄り添うことです。思えば、祖母は僕が困っていたら必ず声をかけてくれていました。僕にできることは少ないけど悩みを聞き、祖母のように、寄り添ってあげようと思います。

今、亡くなった祖母にもう1度会えるなら、伝えたいと思います。

「ばあちゃん、ばあちゃんと話すのはいつでも楽しかったよ。ばあちゃんの自慢の孫になれるよう、頑張るけえ、見とってね。」

優 秀 賞



「もったいない」から生まれる笑顔を

広島市立井口中学校

3年 ^{くぼ}窪 ^た田 ^{あかり}愛花理

私が給食委員になった小学校5年生の春のことでした。

「うちさ、野菜無理なんよね。」そう言うと私の目の前の席の女の子は給食の野菜を皿の端によせ、そのまま食べることはありませんでした。

私は給食委員に特別な思い出や、強い願望があったわけではありません。ただ、気付いたら給食委員になっていました。私の通っていた小学校では、給食のおかずは全て給食室で手作りされていました。毎日山の様に残り、捨てられていく給食。しかしある日、残飯が極端に少ない日がありました。委員の人たちと反省会をしていると、給食室から調理員の人が出て来てさびしそうに笑いながら、「カレーの日はねえいつも残す人が少ないけえねえ。」と言うと給食室に戻って行きました。私はあのさびしそうな笑顔が忘れられないまま、次の日おかずの残飯整理の場所へ行きました。次々と手渡される残飯を見ていつもとは全く違う感情が湧いてきました。「調理員さんは毎日減る事のない残飯を見て、どんな思いだったのだろうか、調理員さんは私たちのために心を込めてご飯を作ってくれていたのに私は何も知らなかった。知ろうともしていなかった。」いつもの様に流れ作業でバケツへと残飯を入れながら私は、「私にできることはないだろうか。」と自問自答していました。そして思いきって給食当番の子に声をかけてみました。「たくさん残っとるねえ。せっかく作ってくれたんじゃけ、もっと食べようよ。」するとその子は「じゃあ明日からもっと食べるよ！みんなにも言うてみるね！」と言ってくれたのです。私は「ああ、何でもっと早く気付かなかったのだろう。」と思いました。そしてさっそく今日の出来事を反省会で話しました。それから私たちは毎日残飯が多かったクラスを記憶し、反省会の時に共有して次の日に活かせるようにしました。中には「私が残したわけじゃないし。」「みんなに言うのムリ！」などと言う子もいました。それでも、少しずつではあったけれども残飯は減っていきました。そしてしばらくたったある日、1人の調理員さんがやってきました。調理員さんは残飯の量のデータを見て嬉しそうに言いました。「カレーの日よりもずっと残飯が少ないわ。一生懸命作ったかいがあったよ。ありがとう。」その言葉は私たちに取り組みの成功を教えてくださいました。私たちのために誰かが食事を作ってくれていること。それはとても幸せで感謝すべきことです。私はその人たちに少しでも恩返しができるのではないかと思いました。

日本はとても恵まれています。店に入れば食事が出てくる。コンビニに行けば食べ物がある。しかしその一方で、まだ食べられるのにすてられていく食品ロスの問題も最近クローズアップされています。日本では年間約620万トンもロスがあるそうです。今、望めば温かいご飯が食べられる私たちがすべき事とは何でしょうか。それは感謝し、自分のたのんだもの、取ったものは責任を持って食べることです。私はこの体験を通して食べ残しをすることが大嫌いになりました。世界には飢えで苦しんでいる人がたくさんいる事、今食べている物が心を込めて作られた物だということを忘れないでください。「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」などできる事はたくさんあります。「もったいない」そう思い行動すれば食品ロス削減もできると思います。そして誰かの心からの笑顔につながるはずです。



平和な世界を築くために

三次市立塩町中学校

3年 ^に新 ^い居 ^{みな}南 ^み海

今、世界には、紛争が絶えない国や、価値観の違いなどによって他国と良好な関係を築きにくい国がたくさんあります。世界中の国が平和になり、他国と対立せず、誰もが安心して暮らすにはどうしたらよいのでしょうか。

私は、それぞれの国が、「違いを認めること」、「考えを尊重すること」、「協力し合うこと」が大切だと思います。それは、今の世界の現実からすれば、難しいことかもしれません。しかし、国をつくっている一人一人の人間という視点に立った時、私たちにできることが見えてくるのではないのでしょうか。

私には中国で働く父がいます。上海を拠点として様々な企業や工場の移転など、国をまたいで支援を行う仕事をしています。中国だけでなく、東南アジアなどいろいろな国に行き、自分自身が楽しんで仕事をしている父は、とても生き生きとしています。父は、日本が大好きです。そして、同じように中国に敬意を払っています。そんな父が年に何度か帰ってきたとき、いつも言っている言葉があります。

「日本には多くの外国人が来て働いているけれどその人たちが日本の産業や生活を支えていると言ってもいいんだよ。私たちは、それを当たり前と思うのではなく、受け入れている側が感謝しないといけないんだよ。」

常に相手に対して敬意と感謝の心をもって、仕事をしている父のことを、私は尊敬しています。

私も幼稚園から小学校2年生までの間、中国に住んでいました。多分、皆さんの中にはマナーや環境に関するニュースなどから中国に対してあまり良いイメージをもっていないという人もいるかもしれません。でも、私は中国が好きです。文化はもちろん、中国に住んでいて一番心に残っているのは、優しい人々です。日本人は1人もいない学校で、言葉も通じない私に、中国の子どもたちはみんな当たり前のように優しく接してくれました。今考えてみれば、違いを当たり前のこととして認めるという、できているようで実は難しいことを、中国の人たちは普通にしてくれていたのだと思います。私は彼らに、感謝してもしきれません。彼らと私たち日本人は、同じくらい優しい人がたくさんいて、同じくらい温かい国だと、私は思っています。

安倍総理大臣が、6月の日中首脳会談で、中国を「永遠の隣国」と表現し、「日中関係は完全に正常な軌道に戻った」と述べました。国と国の良好な関係をつくっていくのはもちろん国のトップの人たちです。しかし、その国をつくっていく私たち一人一人が、他の国を偏見や思い込みで考えるのではなく、様々な違いを認め、尊重し、協力しあうという気持ちをもつこと、感謝の気持ちで接することこそが、本当の意味での「永遠の隣国」、平和な世界の実現につながっていくのではないのでしょうか。

世界の未来を創ってく1人として、私は、父と、中国で出会ったたくさんの大切な友達から学んだことを、日々実践しながら歩んでいきたいと思っています。



世界観を広げる

北広島町立千代田中学校

3年 ^{かわ}河 ^{うち}内 ^の乃 ^あ愛

みなさんは未来の自分を想像できますか。第1志望校へ合格している自分。仕事をしてお給料をもらって好きなことをしている自分。プロスポーツ選手として活躍している自分。オリンピックに出場している自分。5年後、10年後の自分を輝かせたいなら、今何事にも全力で頑張ることが大切だと思います。なぜなら、社会人になるための土台をつくっているのが、今、この学生生活だと思っているからです。

私には、どうしても叶えたい夢があります。それは、海外留学へ行くことです。小学生の頃から、海外に対して憧れがあり、いつか私も海外へ行きたいという気持ちがずっと心の中にありました。しかし、ある行事をきっかけに、「憧れ」ではなく、海外留学へ行きたいという気持ちに変わりました。

昨年12月、台湾の高校生が、私の通っている千代田中学校に来てくださり、交流会が行われました。台湾の高校生は、私たちの知る限りの英語での説明に一生懸命耳を傾けてくれました。私たちの話す英語が伝わったときの感動は今でも忘れません。そして身振り手振りもいれて、夢中になる自分がいました。

こうして、台湾の高校生と英語で会話を交わしたり、彼らが日本文化を真剣に学んでくれている姿を見たりするうちに、私も他の国の文化を知りたい、学びたいという気持ちが強くなっていきました。それと同時に、日本人として日本の素晴らしい文化やよき伝統を大切にしていき、伝えたいと思うようになりました。日本の良さや外国の良さを様々な国の人々が知り、理解するための架け橋となりたい。そのためには、広い視野を持ち、柔軟な考えを持つことが重要だと考え、いつしか自分自身の世界観を広げることが私の夢になりました。

しかし、夢を叶えるためにはいいことばかりではなく、たくさんの試練を乗り越えなければなりません。私が行きたいと思っている留学も、軽い気持ちでは行く事ができません。高いお金が必要であり、英語でのコミュニケーション力も必要とされます。私は特別英語が得意というわけではありません。けれど英語の授業が大好きなので、今までよりもさらに意欲を持って学び、確かな語学力を身につけていきたいと思っています。

5年後、10年後の自分を輝かせたい。自信に満ち溢れ、自分が挑戦したいことに積極的に取り組んでいくような大人になりたい。私のこの大きな夢を家族は応援してくれています。だからこそ、今はどんなことも全力で頑張っていき、輝く自分でありたいと思います。

みなさんも夢中になれるものを見つけてみてください。視野が広がり、新しい世界が見えてくるはずです。



繋がれた縁

広島市立亀山中学校

3年 ^{なか}中 ^{むら}村 ^ゆ優 ^な那

「私は悪くないんです。」

喧嘩をしている後輩2人それぞれが、こう言って私に相談してきたのです。2人の繋がりを消さないためにはどうすればよかったのでしょうか。

私は2年生の夏から、バスケット部のマネージャーとして部員の皆を支えてきました。時には試合で記録をとり、時には怪我人の応急処置などをしたり…。マネージャーは、部員の皆を客観視することができるので、部員から相談を受けることもよくありました。

新1年生が部活動に慣れてきたころのことでした。ある1年生が「あの子が私に命令してくるんです。」と私に言ってきました。「命令」という言葉に違和感をもった私は、命令をしたという1年生に事情を聞きました。すると「先輩が出した指示をそのまま言っただけですよ。」と特に悪びれる様子もなく言ったのです。でも、その日を境に、小さい声ながらもかけあっていたお互いへの励ましの言葉も聞こえなくなり、後輩2人の仲は急激に悪くなっていきました。言葉を交わさなくなった時点で彼女たちの縁は切れ始めていたのです。

それでも何とかなるだろうと、大して気にもとめていませんでした。しかしある日の放課後、命令をしたという子が泣きながら練習場にやってきました。すぐに私は駆け寄って何があったのか聞きました。

すると、一言。

「あの子が部活、辞めたらいいんです。」返す言葉が見つかりませんでした。私が相談を受け、そして、頼りにされていたはずなのに。先輩として手を差し延べるチャンスはいくらでもあったはずなのに。2人の気持ちを考え、私がきちんと対処しなかったせいでこんな結果になってしまった。と心の中に悔しさと歯がゆさが込み上げてきました。

実は私はそんな2人からLINEで相談を受けていたのです。LINEの中で2人共「私は悪くない」の一点張り。きっとお互い自分に非があるのを認めたくなかったのでしょうか。

私は改めて、2人とのやりとりを見返してみました。すると2人の言葉に対して私はそれを肯定する返事ばかりしていたのです。例えば、

「私がいると迷惑だと思うんです。」と言われれば

「迷惑だとは思ってないけど、あの子の言い方がキツいのは分かる」と返し、

「私が下手だから命令してくるんですよ。」と言われれば

「たとえ下手でも命令するのはよくないよね」と。彼女達の心に傷を作るまいとしているズルい自分の姿が文面から読み取れました。

私が後輩にできるアドバイスは限られているのは分かっています。でももし私が自分の体面などを気にせず、もっと具体的にアドバイスを伝えることができたなら、後輩から退部という選択肢をなくし、一步踏み留まらせることができたのではないかと思うのです。

部活動とは、言わば1本の大きな木のようなものです。出会いが種なら仲間は根となり幹となり、言葉という枝葉で繋がれ、そして沢山の思い出が実となります。甘く熟した実を作るには、深い根、太い幹がないと成り立ちません。仲間との思い出を作るのにも同じ事が言えます。言葉という繋がりがどれだけ大切で、かけがえのないものなのか。私はこの経験を通して強く感じることができました。今回実った実は形が歪んで出来の良い物ではなかったけれど、これからも言葉の力を信じ、沢山の縁を繋いでいけるよう、言葉に対して謙虚に、そして誠実に向き合っていこうと思います。

優 秀 賞



私の妹

尾道市立重井中学校

2年 ^{なが}永 ^{かわ}川 ^ち千 ^{はる}晴

私には2つ下の妹がいます。私の妹は、かしこくて、運動神経が良いです。そんな妹に対して、私は少し頭が悪く、あまり運動神経が良くないです。よく周りには、妹ちゃんは良い所ばかりで反対だね、と言われる。たしかに妹は、親の良い所ばかり受け継いでいると私も思います。性格も、頭も、どちらかという妹の方が上をいっているのです、本当に姉妹なのか、本当に私が姉なのか、と不安になってしまうことがたびたびあります。

私は、生まれる前から病気にかかっている、体の左の部分は、右の部分より小さくなってしまっています。足や目、うでやふとももの太さ、長さが違います。そんな私を見てお母さんは、「ごめんね。」と言います。私は「いいよ。」とくり返し答えています。でも本心はみんなと同じがいい、普通がいい、そういつも思っています。そんな暗い気持ちで自分の体を見ていると、妹は、「お姉ちゃんは私を守るために病気になったんだね。すごいね、ありがとう。」と笑って言うてくれました。そのとき私は、「すごいでしょ。」と笑い返しました。その前までは、自分の体がいやだと思っていたのに、妹を守ったからこの体になったなら、全然いやと考えが変わりました。ずっといやだった自分の体が、すごく好きになっていきました。左右で違う大きさの目、太さの違う足と腕、長さの違う左右の足、もし妹が先に生まれて逆になっていたら、私が妹で普通の体だったらどうなっていたらう。たとえ私が普通の体でも、妹が今の私の体になったら嫌だと思いました。私が生まれる時、死ぬ確率だってありました。何度も生死をさまよって生まれてきました。それを妹が経験するくらいなら、私が経験した方がいいと思いました。もちろん、普通の体が一番いいと思うけれど、もし私が病気になったから妹が病気にならずにすんだのなら、本当にそれで妹を守れたなら、別にいいと思いました。

今までこの足だから、みんなと一緒に歩けない。本当は、みんなと一緒に同じペースで歩いてみたい。常にそう思っていました。そして何となく、独り取り残されたれ気持ちになることがつらかったけど、これが私のペースなんだ。今の自分のペースをありのまま受け入れて、できなかつたら次はこうしようと、考えるようになりました。周りの友達や家族も、こんな私をありのままを受け入れて、できないと決め付けしないで、普通に接してくれました。このことに、感謝しています。

今、私は毎日学校に行く。クラスメイトに会い、勉強したり、話したり、くだらないことで笑い合う日常生活が楽しいです。この日常を大切に生きていきたいです。

もし、妹がその言葉を言うてくれなかったら、死ぬまで自分の体を嫌っていたかもしれません。本当に感謝しています。妹のその一言のおかげで、私は自分の体を好きになれて、カッコいいと思えるようになりました。

このことをきっかけに、私は将来一つ一つの命を、大切にできる人になろうと思います。自分が命を失いかけたからこそ、どれだけ命が大切か、どれだけ重い物なのかを知っているから、他の人にも、小さな命を失ってつらい思いをして欲しくないからです。自分の体を好きになれて、カッコいいと思えるようになったのは、妹のおかげです。私を救ってくれた、好きになるきっかけをくれた妹を、大切にしていこうと思います。



部活を越える

広島市立白木中学校

3年 福 島 誠 啓

「富士山に登る人がいますよね。それってどんな人ですか。」

朝会は、いきなり先生のこの問いかけで始まりました。『どんな人って。根性のある人？それとも』なんて心の中でつぶやいていると、「それは富士山に登りたい人です。」とあっさり答えを言われました。『えっ、当たり前じゃないか』と思った瞬間「当たり前ですよ。その辺をふらっと散歩していたら、いきなり富士の頂上に立っていたなんて人はいませんから。富士山に登りたいと強く願い、行動を起こした人だけが頂上に立てるのです。」

悔しいくらい当たりのこの話が、この時の自分にはズシッと心に入ってきたのです。

3年生になった今年の春。僕は悩んだ末に部活を辞めました。2年間続けたサッカーは、決して嫌いなわけではなく、試合に出たり、後輩ができたりと、それなりに楽しく活動していました。いい時もたくさんありました。ただ、1度もつれた人間関係をもとにもどすのは、とてつもなくつらかったです。

思えば小学生の頃は、中学になったら部活動が始まる。何に入ろうかな。怖い先輩がいたらいやだなあ。厳しい練習だったら嫌だなあなんて想像し、部活には入るものだと思い込んでいました。周囲からは「何部に入るの?」と聞かれたり、「部活を頑張ったら内申点が上がるよ。」とまことしやかにささやかれたり、「部活に入る」以外の選択肢が自分には全く無かったです。こうして「何となく」スタートした部活生活は、掛け違えたボタンのようでした。いつまでたってもしっくりこない。自分がどんどん後ろ向きになっていく焦りで、「そもそも何で部活動に入らないといけないんだ。」そんな反発にすり替えていきました。冷静に考えると部活動に入らない選択肢ははじめからあったのです。現に部活に入らず他の習い事に通っている友達も身近にいました。自分で自分の気持ちがよくわからないまま、周囲に流され周りに合わせていただけだったのです。だから僕は辞めました。先生や大人から見れば、部活に入らない=ぶらぶら遊ぶとなり、正直よい感情は持たれません。スッキリ辞めたわけではなく、2年間も一緒に続けてきた友達への罪悪感も味わいました。

あの富士山の話聞いた時、登りたい山も決められず、すそ野をウロウロしている自分の姿を想像したのです。そして自分が登りたい山を真剣に想像してみました。それは、部活を越えてその先にありました。

だから、今の僕は、登りたい山を探して、いろんなことに1人で行動を起こしています。この夏休みも、部活ほどハードではありませんが、トイレの神様を呼ぶ会のボランティアで便器を磨いたり、お店の前で献血の協力を呼びかけるボランティアに参加したり、公民館主催の小学生クッキング講座に参加して、お手伝いしたりと、充実した時間を過ごすことができました。子供たちのキャンプのお世話もしました。はじめて話し方の合宿にも参加して新しい友達にも出会えました。部活だけの夏では味わえなかった体験です。こうして夏が終わる頃には部活を辞めた罪悪感は完全に消えていました。もつれた関係も自然にほどけた気がします。

これからの人生、人のせいにしてたり人任せにしてたりしないで、自分の意志ははっきり示して行動に移す生き方をしたいと思います。部活という険しい山に登るのもすごいことだし、部活を越えているんなワクワクを体験するのも素晴らしいことでした。肝心なのは、登りたい山を自分の意志で決めることです。一歩ずつ行動に移していきます。



食品ロスを減らすために

竹原市立賀茂川中学校

3年 ^{ます}益 ^だ田 ^{じゅ}珠 ^の野

日本には四季があり、季節によってイベントがあります。この前、「パーティーに欠かせない物と言えば!？」という記事を見つけました。その質問には、たくさんの方が「美味しい料理」と答えていました。イベントで欠かせない物となっている料理ですが、私たちが楽しんでいる一方、たくさんの食べ物が捨てられています。この事について、考えるようになったきっかけは、ニュースで見た、恵方巻きの大量廃棄の映像でした。工場には、大人の腰の高さ程ある、大きな箱が、積み重ねられ、箱の中には恵方巻きがぎっしり詰まっています。もったいないと思いましたが、それを見て私はふと、給食の食缶に入れられた残菜を思い出しました。身近な所でも、毎日多くの残菜を出していたのに、全く気にならなくなっていたことに気付いたのです。

そこで私は、食品廃棄物の問題について、調べてみました。日本の食品廃棄物は、1713万トン。そのうち、食べられるのに、廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は年間646万トンと推計されています。と言われても、どのくらいの量なのか、想像しにくいと思います。これはだいたい、学校の25メートルプール1500個分と考えていいでしょう。日本でこんなにも多くの食品ロスは生まれているのです。しかし、現在、世界では、8億4千万人以上の人が満足な食事ができていません。1人の1日あたりの食品の消費量は約1200グラムなので、日本の食品廃棄物が全て、困っている人たちの元に渡るとなると、少なくとも542人の人達が満足な食事を取ることができます。それを知っても、残そうと思いませんか。商売のために不必要な量の生産を進めますか。

簡単に解決できるような問題でないことは分かっています。ですが、解決の一步を踏み出さないと現状は変わりません。皆さん、サステナブル・ディベロップメント・ゴールズを知っていますか。これは、2030年に向けて持続可能な社会にするために立てられた17項目の目標です。その12項目めに、「つくる責任、つかう責任」と示されています。責任を果たすためには、どうしたらいいのか…。

企業では食品ロスを減らすための取組が少しずつ始まっています。フードシェアサービスです。これは、家庭や飲食店などで余っている食品や食材を、食べたい人に寄付や割引で提供し、まだ食べられる食品を無駄にしないようにしよう、というものです。今はまだ関東圏での企業が中心となっていますが、参加する企業が増えていけば大きな一歩につながると思います。しかし、企業が努力をしても、消費者である私たちが、つかう責任を果たそうと意識改革を行わなければ、改善を図るのは難しい問題です。

だからこそ今、食生活を見直すべき大切なタイミングです。私たちができることは、本当に必要な量はどのくらいなのか考え、スーパーや飲食店などで買い物をする時や食事をする時には、食品ロスが出ないようにすること、また、食べ物を頂くときには、感謝の気持ちを忘れないようにしていくことだと思います。その取組が、1人・2人と広がることによって、社会全体が変わっていくことを願い、まずは私が実践していきます。



審査委員長

東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長

山本名嘉子

本日は、3,430人の応募の中から選ばれた23人の方の発表をお聞きしました。それぞれの発表は、大変素晴らしく感動的な時間を過ごさせていただきましてありがとうございました。発表者の皆さんはさぞお疲れのことと思います。

今日の発表を通して感じたことは、内容、テーマが大変多岐にわたっているということでした。学校生活だけではなくて、非常に広い分野から問題が取り上げられていると思いました。社会や日常生活、地域、そして父母、祖父母といった家族、兄弟姉妹もありましたね。また、テーマではいのちの問題、つながりの問題とこれまでになく、たくさん問題が取り上げられて、ご意見を発表されたと思います。このことは、大変すばらしいことだと思います。中学生の皆さんがしっかりした考えを持って、そして自分の考えを大勢の人の前で伝えることは大変勇気の要ることでもあります。それだけに、それぞれの発表はすばらしいものでありました。

身近なことの中からしっかりした考えを持つということのために、皆さんがどんなふうに取り組まれたか、少し考えてみました。まず、自分が出合った出来事、あるいは体験をしっかり見つめることでした。どうしてこうなったのかということを考えていきます。それから自分を見つめること、自分のあり方を見つめる人も多かったようです。また、自分が出合った言葉、他の人からいただいた言葉から、その言葉を深く考え見つけ、さらには疑問に思ったことを実際に行動したり体験したりして、問題を明らかにし、自分の考えを見出していった人がいました。突然、自分の考えが湧いてくるわけではないのです。それなりのいろいろなことを努力して自分の考えを確かなものにしていくことが大変すばらしいと思いました。

そして出来上がった考えを人に伝え、わかってもらうということのために、また工夫が要るわけですね。特に今日は「話し言葉で伝える」ということです。伝えるためには二つの視点から考えることが必要です。「審査の視点」にもありましたけれども、論旨や論の構成の面と、話し方を中心とした表現の面の二つです。非常に衝撃的なことに出合った、あるいは災害に出合った、友人の事故に出合った、さまざまな出来事を体験したと思います。そのことをどういうふうに自分の中に取り込んで、自分としては様々なことを思うわけですが、その思いを人に伝えるためにどうするかを考えます。そのどうするかというところは、論の構成をどうするか、また言葉の選び方などや話しぶり、話し方をどうするかということです。

事件が、あるいは出来事があまりにも衝撃的であるという場合があります。災害であったり、友人の死であったりというようなことですね。そうすると、そのことを伝えなければ分かってもらえないと思いますから、そのことに力を入れて伝えます。しかしながら大切なそこから自分が何を考えたか、どのように思ったかというところのつながりが話されていなくてその部分が弱くなっていることがあります。エピソードなりその事件なりが大きくクローズアップされ衝撃的に伝わりますけれども、肝心の自分が何を考えたか、このことが少し弱くなって、たくさん思ったこと、考えたことがうまく伝わってこない、そういう人が何人かいたように思います。人に伝えるということは、自分が感じたそのものを言うだけではなかなか伝わらないこともありますから、人によくわかってもらうために、展開を考えたり、材料を工夫したりということが必要になって来るのです。

次に話し方ですね。その「伝える」というところの話し方の部分ですけれども、話しぶりが、大體において非常に静かに落ち着いて話されました。これは審査員の先生方が皆さんおっしゃっておられます。そのことは、強く大きな声で絶叫するというところで伝えるのとは違って、静かであるけれども、ずうっと胸に響いてくるような、そういうような思いが伝わってくるような話し方です。話しぶりがとてもよくなったというようなご意見がたくさんありました。もちろん自分の伝えたいことに対する熱意は必要です。このことを伝えたいというそういう熱い思いというのは、強く言う大きい声で言う問題ではなくて、言葉の選び方や音声にこもって表されてくるものだと思います。そういう点についてはやはり少し工夫がいったかなと思う場合もございました。また、どう表現するかだけではなくて間（ま）を取るということ、伝えたならば、聴いた者も一緒に考えているわけですから、その間（ま）を共有しているということを考えてほしいと思います。加えて、内容にふさわしい話し方というのを考えてもらえればよいと思います。元気のいい話のときにはやはり元気よく、というのがいるのかもわかりませんね。

次に、順不同でありますけれども、印象に残った発表について触れていきたいと思います。例えば7番の友松さん（大崎上島町立大崎上島中学校）は、働くということをどのように伝えていくか。それは道德の授業で知った東京ディズニーランドの掃除の仕事で伝えられましたけれども、自分の掃除というところに関わって考えました。掃除をする時、なんだか自分が違和感を覚えるということで、ああ、こういうことだったのかと悟ってくるような表現がありましたね。この方の発表は非常に落ち着いていきいきとした話しぶりであったと思います。

それから20番の福島さん（広島市立白木中学校）は、部活を辞めて、そして自分の生き方を、自分探しというのでしょうか、自分は何をしたいのかといろいろと行動し考えていった発表がありました。中学生は、みんな部活に入って、余り何も考えなくそれに取り組んでいくという人が多いと思いますけれども、部活を通して自分で新しい自分を切り拓いていく、そういう道筋といいますか、行動したり、ボランティアをやってみたり、いろいろなことをやって、そういう自分探しの過程が、まだ結論は出ていないのですけれども、話されて、なかなか中学生としてはよく考え、こうあって欲しいなというふうに思いました。静かに話されて、出だしもすばらしかったと思います。

それから言葉について話された小林さん（広島市立国泰寺中学校）。「楽しんでね」というお母さんのひと言から、自分がどう生きるかということを探し、考え、そして行動に移していく。暗いこととは言わないで、前向きに生きていこう、友だちにもそういう言葉を掛けようというふう実践していく。なかなかすばらしい発表であったと思います。

それから、23番の丸川さん（三次市立布野中学校）は、人の気持ちが分かる人になろうと考えました。これもやっぱり言葉の問題に関わりますね。今、言葉が上滑りになって、あまり考えられないで使われることが多くなっているように思いますけれども、言葉をしっかりと受けとめて、そして考える、そういう人に育ってもらえればよいと思います。

社会問題を取り上げた人もありました。例えば今日の大きな問題であります食品ロスを取り上げた22番の益田さん（竹原市立賀茂川中学校）。少しデータが多過ぎたかなという感じがしますが、自分の問題として、それを使うものの責任として意識改革をしていかなきゃいけない、自分からそういうことを進めていきたいと話された主張は非常に印象に残っています。

なお、その他に身近なことを取り上げた人の発表も心に残りました。いじめの問題や給食のことです。給食の問題を取り上げて、残菜を残さないようにしようと、自分からまず声を出していくというところに踏み切った、これは大変勇気が要ったと思うのですけれども、なかなかよかったと思います。

なお、祖父母の生き方とか祖父母の言葉から学んで、自分がこれからこうやっていこうと感動的に伝えてくださった方もありました。とても心に残ったものでありました。

皆さんの発表に全て触れることはできないのが残念です。皆さんの一人お一人が自分の考えをまとめて発表するという過程を通して、大きく変わっていくものがあったと思います。今、自分の中に、大きな力が生まれていると思います。それをどうが学校生活の中で、いま問題になっているいじめの問題などにも生かしてください。しっかりと考え、自分の意見を話し、行動する力を生かしてください。地域や家族の中で役立ててください。

今日、すばらしい表現力、すばらしい考えを持った皆さんに出会えたことを大変嬉しく思い、心からお礼を申し上げ終わりたいと思います。

「少年の主張」・中学生話し方大会 2019

第 41 回「少年の主張」広島県大会開催要領 第 53 回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化，情報化が急速に進み，環境が目まぐるしく変化する現代社会において，次代を担う子供たちには，論理的に物事を考える力，自分の主張を正しく伝える力，広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。
この大会は，中学生が話すことによって伝える力を育み，学び合う機会となるとともに，意見発表を通して，中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議，広島県中学校話し方連盟
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，
公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県，広島県教育委員会，広島市，広島市教育委員会，広島県公立中学校長会，
広島県私立中学高等学校協会校長会，中国新聞社，NHK広島放送局，中国放送，
広島テレビ，広島ホームテレビ，テレビ新広島
- 6 開催日時 令和元年9月7日（土） 10：00～16：00
- 7 日 程 9：30～10：00 受付
10：00～10：15 開会行事
10：15～12：00 発表「午前の部」
12：00～13：00 出場者記念撮影，昼食
13：00～14：30 発表「午後の部」
14：30～15：00 「少年の主張」全国大会のDVD上映
15：00～16：00 審査発表，表彰，閉会行事
- 8 開催場所 広島県社会福祉会館 2階 講堂
(広島市中区比治山本町12-2)
- 9 発表内容 次のA,B,Cの中から，日ごろ心に思っていること，考えたことや感銘を受けたことなどを，自由でユニークな発想と，飾り気のない言葉でまとめたもの。
なお，未発表，自作のものに限ります。
また，商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。
A 社会や世界に向けての意見，未来への希望や提案など。
B 家庭，学校生活，社会（地域活動）または，身の回りや友だちとの関わりなど。
C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想，提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。
発表時間は5分程度（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を經由して提出する(原稿は返却しない)。
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。
原稿は原則400字詰め原稿用紙（A4判縦書き）を使用すること。（学校等で使用されるB4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 令和元年8月2日（金）必着
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（6名程度）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞を受賞した5名には、副賞として海外研修が(公財)広島青少年文化センターから授与される。
時 期：令和2年夏休期間の5日間（予定）
訪問先：大韓民国（予定）
- 17 そ の 他 この大会で、県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月以降 東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先
申込み先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係
〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）
電話 082-513-2742
ファクス 082-511-2173

審査員及び審査基準

1 審査員

審査員長	山本名嘉子	東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長
審査員	江種則貴	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長
//	清川徹	NHK元チーフアナウンサー
//	谷崎栄子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	田原直樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷和子	公益財団法人広島青少年文化センター センター長
//	藤本恵	広島県中学校話し方連盟顧問
//	宮尾茂	広島県環境県民局県民活動課長
//	森戸美佐子	国際ソロプチミスト広島会長
//	与座淳	広島市教育委員会指導第二課指導主事
//	吉岡道治	広島清流ライオンズクラブ会長

(50音順, 敬称略)

2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

「家庭の日」に関する作文・図画

特選

家ぞくの音

東広島市立寺西小学校

2年 市 位 里佳子

お母さんに、ぎゅうってしたよ。ふにゃふにゃ、あったかい。

どくどく

どくどく

むねのまん中で音がしたよ。聞いていたらねむくなってきたよ。

お父さんにも、ぎゅうってしたよ。ごりごり、かたい。

どく どく

どく どく

ゆっくりうごいている音がしたよ。お父さんが声を出すと耳がぶるぶる、びりびりふるえたよ。びっくりして、2人でわらったよ。

お姉ちゃんときゅっとだきあったよ。それだけで、2人でわらったよ。

とくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとく

お姉ちゃんの音は、すごくはやいよ。何でかなあ。お姉ちゃんは、元気だからかな。

自ぶんの音は、どうやって聞けばいいのかな。目をつぶって、手をむねにあてて、じいっとしていたら、

とくん とくん

とくん とくん

手のひらで音を聞いたよ。

家ぞくみんなちがう音。

ゆっくりな音、おちついた音。

はやい音、元気な音。

いろんな音があっておもしろい。

お母さんにおなかにいるときのしゃしんを見せてもらったよ。「ピクピク元気にうごいているよ。」と書いてある。お母さんは、それを見て、とてもうれしかったんだって。

お姉ちゃんのしゃしんには、「ピクンピクンうごいています。」姉妹でも、ちがう音だったのかなあ。おなかの中にいるときから、ずうっと休まずうごいている。すごいなあ。

もう1まい、しゃしんを見た。わたしの、弟か妹のしゃしん。どちらかわかる前に、ピクンピクンがとまっちゃったんだって。

はじめて知って、かわいそうで、なみだがとまらないよ。あいたかったな。

お母さんは、

「生まれるって、すごいことだよ。」

と教えてくれた。どくどく、どくどく、生きてるってすごいこと。どくどくって、うれしい、楽しい音なんだね。

家ぞくみんなが、どくどく、とくんとくんと楽しい音をさせて、ずっといっしょにいたいな。

特選

思い出の鉛筆

広島市立五日市中学校

1年 井上 咲希

私は小さい頃、兄と弟が大嫌いだった。私には、兄と弟がそれぞれ一人ずついる。兄は、いつもは私の話を聞いてくれないのに、いじわるやちょっかいをかけてきて、弟には、私の大好きな「お母さん」の存在を一人占めされていた。こんな兄弟なんかいない、そう思っていたのだが、今はちがう。今では、兄は高校へ通い、夜おそくまでアルバイトをしていて、くたくたになってもまた明日頑張ろうとしている姿に尊敬するし、弟が勉強と三つの習い事を頑張っているところも、本当にすごいと思っている。今では、兄弟の良いところなんて数えきれないほど言える自信があるし、兄弟が大好きだ、と言えるくらいの気持ちがある。そう思えるようになったきっかけは、今から6年前、私が1年生のときのことだった。

私が小学校を入学してから少し経ったある日、私の弟はノロウイルスという病気にかかり、しばらく入院することをお母さんに言われた。6才だから、どんな病気かなんてわからなくて、いつも通りの慣れない学校に行った。学校から帰り、お母さんに言われた。

「明日、病院に行ってくるから、夜ご飯はおばあちゃんと食べてね。」

「うん。」と答え、明日の準備をしていると、私の口から、思ってもいない言葉がでた。

「お母さん、私ね、新しい鉛筆が欲しいの。」

お母さんに甘えていたのだろう。本当は鉛筆なんてたくさん持っていたのに。もやもやした気持ちで次の日の学校から帰ると、ちょうどお母さんが病院に行こうとしていた。「もう少しでお兄ちゃんが習い事から帰ってくるし、おばあちゃんも来ると思うから、良い子で待っててね。」

「ガチャン。」と音を立てて、ドアが閉まり、ガラスの向こう側のお母さんの服の色が見えなくなった。リビングに向かうと、机の上に私の好きなキャラクターの鉛筆が置いてあった。「ありがとう。」と言いたくて、私は急いでドアを開けた。でもお母さんの姿はない。その時、今までがまんしていたものが、声になって響く。涙があふれたまま、リビングにもどると、鉛筆の横の手紙に気づいた。そこには、「あしたのじゅんぴ、わすれないように。あたらしいえんぴつでべんきょう、がんばってね。」と書いてあった。私は、名前ペンを手に取り、鉛筆に名前を書いた。泣いているからか、手がふるえて、うまく字が書けない。やっとのことで書き終わると、ドアが開き、お兄ちゃんの顔が見えた。安心したのか、さらに大きな声が部屋に響く。無口な兄は何も言わず、私を抱きしめてくれた。

それからのことは、あまり覚えていない。ただ、私はそこで、お母さんの大切さ、兄の優しさを感じ、これから先、家族や友達の力になれることがあればいいな、と心から思ったのははっきりと覚えている。

私は、1才半から父親の仕事の関係で引越しをたくさんしてきました。いつも1～2年間かくで引越しをしてきたので、幼稚園が2回小学校が4回かわりました。私の家族は引越しがそろそろ決まりそうになると必ず家族会議をひらきます。父と母はいつも私と弟と妹の話を聞いてくれました。最初の頃は自分も小さかったので、あまり思い出はありませんが、母は知らない場所でも家の近くの公園へつれて行ってくれたり、私たちと同じぐらいの子たちと仲良くできるように話しかけてくれたりして、私たちの友達をつくってくれていました。父は引越し先の観光名所などを調べてたくさん出かけてくれました。だから小さい時は引越しすることは楽しかったです。

小学生になって初めて引越しに悩みました。1,2年生でも学校に慣れて、友達もたくさんでき、信頼できる友達にも出会え、思い出が増え毎日が楽しかったです。初めて行く学校の登校初日は心臓バクバクできん張っていました。何回も転校してきてもこれだけは慣れませんでした。それでも、私のために母は毎回クラスまでついてきてくれました。すれちがう子たちに母は笑顔であいさつをしてきん張をやわらげてくれていました。家に帰ると必ず父と母は、その日にあった良い事や、良くなかった事なんでも聞いてくれました。弟も妹も、その日にあった事を話している時はとても楽しそうで夕飯の時はみんながそれぞれ話を始めるのですごくにぎやかでした。4年生の時1月に長崎へ引越ししました。5年の始めに、まだ慣れていない時クラスの子にいやな事を言われて初めて学校へ行きたくないと思い、母へ相談しました。父と母は私の話を聞いてくれて、

「無理して学校へ行かなくてもいい。」

と言ってくれました。家にいる時も父と母は明るくいつも通りに接してくれていたのもとても気が楽になりました。父と母、仲良くなった友達のおかげで学校へ行く勇気ができました。それから仲良くしてくれていた友達が引越しをして行きました。いつもは、自分が引越しをして見送ってもらう方だったのに、初めて友達を見送り、見送る方のさみしさも知りました。6年生の1月にまた引越しの話になりました。今回は私の卒業もあり家族でたくさん悩み考えました。父と母は私の気持ちが一番だと言ってくれました。私は5,6年生を過ごした学校で、たくさんの友達、先生たちと卒業式をむかえたかったけど、父1人で引越しのではなく家族で引越しことに決めました。私は今まで10回の引越しをしてきたけど、そのたびに父と母が私たちのことを1番に考えて話を聞いてくれて明るくしてくれていたのも家族がずっと一緒にいたいと思いました。私が引越し後に引越さなければ良かった、とか思わないのは家族と一緒に毎日が楽しいと思える家族だからだと思います。父と母は、私に

「苦労かけてごめんね。」

と言います。クラスのお別れ会では、私と同じように父と母も涙しています。でも私はその時は悲しくても、家族での新しい生活がまっていると前向きでいられました。それは父と母、弟と妹のおかげだと思います。

私は引越しの多い家庭で良かったと思いました。広島に引越してきた後祖母が長崎での卒業式につれて行ってくれました。お世話になった先生、仲良くなったみんなと一緒に卒業式で会えたので、とてもうれしかったです。いつも私たちのことを思ってくれている父と母、祖父、祖母ありがとう。これが私の自まんの家族です。

入選

おかあさんのくちぐせ

広島市立牛田小学校

1年 ^{いの}井 ^{うえ}上 ^{さくたろう}朔太郎

「おかあさん、いつびょうきになるかも、いつまでいっしょにいられるかもわからないんだよ。」

それが、ぼくのおかあさんのくちぐせです。

「おとうさんも、おかあさんも、おにいちゃんも、おとうとも。」

といいます。

おかあさんがこれをいうときは、ぼくが、わがママをいすぎたり、おとうとにいじわるをしたり、ごはんをそまつにしてしまったりするときです。

ぼくは、どうしていつもそんなおおげさなことをいうのだろうとおもって、きいてみました。すると、ぼくがうまれる2ねんまえ、とうほくで、おおきなじしんがあったころ、おばあちゃんが、びょうきになったそうです。それも、しゅじゅつしてもはんぶんは、いのちを、おとすかもしれない、たいへんなびょうきだったそうです。

ぼくは、びっくりしました。おばあちゃんは、いまは、とてもげんきで、あうと、りょうてをひろげて、ぼくとおとうとを、だきしめてくれる、げんきすぎる、だいすきなおばあちゃんだからです。

そのときおかあさんは、はじめて、いのちのたいせつさ、かぞくのたいせつさをかんがえたそうです。げんきなひとでも、わかいひとでも、いつびょうきになるのかわかりません。ひとごとではありません。そうおもうとそれまでよりもっとかぞくをたいせつにおもうようになったそうです。

ぼくにはまだ、いのちがなになのか、どこにあるのか、しぬってどういうことなのか、よくわかりません。でも、このおばあちゃんのはなしをきいて、いままでよりも、もっとかぞくをたいせつにしようとおもいました。そして、はやくおばあちゃんにあいにいってだきしめてほしいな、と思いました。



入選 ぼくのかぞく

尾道市立向島中央小学校

1年 田 窪 心 暖

ぼくのかぞくは、4にんかぞくです。ぱぱとママとおとうととぼくです。もうすぐ、いもうとができます。そして5にんかぞくになります。

ぼくが、ママからあかちゃんのことをきいたときは、びっくりしました。でも、すこしうれしかったです。

ママのおなかが、だんだんおおきくなっていくのが、ふしぎでした。ママが、びょういんから、もらっかえってくる、あかちゃんのしゃしんをみて、かわいいとおもいました。

おおきくなったおなかに、ぼくがさわると、おなかがどくどくうごいていました。あかちゃんが、おなかのなかでうごいていることをしりました。このことを、たいどうということをおしえてもらいました。

ぼくは、あかちゃんがおんなのこでうれしかったです。もし、おとこのこだったら、おとこだらけになるからです。

あかちゃんがうまれたら、ぼくがいちばんおおきいおにいちゃんになります。だから、あかちゃんのおせわをしたり、ママのおてつだいをしたいです。

もうすぐあかちゃんがうまれるから、いろいろじゅんぴをしています。そのなかで、あかちゃんのおふくがちいさくて、かわいかったです。ぼくのおふくとくらべると、すごくちいさかったです。ぼくも、こんなにちいさかったのがふしぎにおもいました。

うまれたら、だっこしたり、おもちゃであそびたいです。

あかちゃんがうまれるときは、ママのおなかがいたくなるとききました。あかちゃんもママも、がんばってげんきにうまれてきてほしいです。

みんな、たのしみにまっています。

入選

じいちゃんのさいごのはちみつ

福山市立御幸小学校

2年 お緒 方 陽 和

わたしのじいちゃんは、しゅみではちみつをつくっています。

にわにミツバチが入っているはこがたくさんおいてあり、ミツバチの世話を毎日しておいしいはちみつをつくっています。

じいちゃんのつくるはちみつは、とてもあまくて、パンにぬれば、たちまちパンがなんばいもおいしくなる、まほうのはちみつです。

そんなじいちゃんがきょ年の夏、わたしが1年生の時、ガンと言うびょう気で天国へ行ってしまいました。

びょういんでいたみながまんしながらちりょうをしたけど、きょ年の夏に二どと会えない人になりました。

じいちゃんはおごけるギリギリまでおいしいはちみつをつくるために、ひとりで一生けんめいミツバチのせわをつづけていたそうです。

しばらくしてじいちゃんがいなくなって、とれたその年のはちみつはいつもの年よりずいぶん少ないりょうでした。

じいちゃんがいつもひとりでしていたはちみつのしゅうかくは父さんとばあちゃん、2人がしました。

「はちみつをしゅうかくするのがあんなに大へんだとは思わなかったよ。」

とミツバチになんかしよかさされたあせだくのうで見せながら父さんがわたしに言いました。

じいちゃんはわたしたちにおいしいはちみつを食べさせるために、なん年もこんな大へんな思いをしていたんだと思うとわたしはきゅうにじいちゃんに会いたくなり、なみだが出そうになりました。

じいちゃんのがこしたさい後のはちみつ。

そのさい後のはちみつをわたしは毎日スプーンに1ぱいだけ食べることにしました。

じいちゃんが生きていたころのように人にあげたり、りょうりにつかったり、パンにぬるのではなく、毎日スプーン1ぱいだけ大切に大切にあげながら食べました。

そんなさい後のはちみつはじいちゃんがいなくなって1年がたちわたしが2年生になった夏とうとう後1びんになってしまいました。

「わたしね、あれからせがのびたよ。かん字もたくさんおぼえたよ。学校はたのしいしじいちゃんに言われた通りなんでもチャレンジしてべんきょうもがんばってるよ。」

じいちゃんに話しかけるようにわたしはさい後のはちみつのびんを手にもってつづやきました。

さい後のはちみつのびんから、

「そうだ、そのちょうしでがんばれよ。」

とじいちゃんのわらいごえが聞こえたような気がしました。



入選

かぞくみんなでおこめづくり

三原市立糸崎小学校

2年 豊島 圭吾

ぼくの、おじいちゃんは、おこめをつくっています。ぼくは、そのおこめをまい日たべています。とてもおいしいです。ぼくは、おじいちゃんのおこめづくりのてつだいをかぞくいとこたちとします。おこめづくりは大へんなので、みんなでてつだいます。みんなあつまって15人です。

6月にたうえをします。ぼくは、田うえが一ばんたのしみです。どろがいっぱいあってきもちいいし、てつだいしながら、いとこたちと、ビチョビチョになってあそべるからです。田んぼは、思ったよりふかくて、すぐあるかないと、しずんだりたおれそうになります。

いちばんたいへんなのは、いねかりです。子どもたちで力をあわせて、しゅうかくしたおこめをはこぶてつだいをします。子どもたちだけでは、おもくではこべない時は、おとうさんやおかあさんといっしょにはこびます。

すごくたいへんだけど、おじいちゃんが、「みんなよう、てごうしてくれたのう。ありがとう。」と、とてもうれしそうに、言ってくれるので、ぼくも、うれしいし、もっとてつだいたいとおもいます。

てつだいをするときには、いつも、おひるごはんやおやつもみんなであべます。みんなですわると、ギューギューづめだけど、とてもにぎやかでみんなが、おおわらいするのでたのしいです。

おじいちゃんの田んぼのまわりには、いまはもう、つくっていない田んぼがたくさんあります。だから、おじいちゃんの田んぼが草むらにならないようにぼくが大きくなったらおじいちゃんの田のせわをしたいです。てつだいをしながら、つくりかたをおしえてもらいたいです。

おこめづくりのようにたいへんなことも、みんなであつまったら、なんでもできます。1人でするより、かぞくがいると、すごい力になるし、たいへんなことも、たのしくすることができるとおもいます。ぼくは、「ありがとう。」のこころをこめてかぞくのためにてつだいをしたいです。

入選

ぼんおどりを楽しむぼくの家ぞく

東広島市立西条小学校

2年 ふる やしき 古屋敷 あり と 有 人

うちの家ぞくは、近所で行われる西じょうぼんおどりの夕べに、毎年さん加している。今年も、もちろんさん加した。

ぼくの家ぞくは、5人家ぞくだ。パパ、ママ、いもうと2人とぼくだ。

まず、ぼんおどりを楽しむために、7月から、4回ほど、ぼんおどりほぞん会にさんかして、三つのぼんおどりをれんしゅうした。毎回、近所の友だちもいて、休けい時間にジュースものめて、楽しかった。本ばんは、やぐらのまわりに円を作って3きょくおどった。れんしゅうの時から、合いの手を入れていたから、本ばんでも、「サッサ西じょうヨイヨイトナー」とか、「アラ、ヨーイヤナーヨーイヤセ」とか、大きな声で合いの手を入れて、おどった。れんしゅうのせいかがはつき出来て、よかった。いもうとたちは4才と2才だけど、ゆかたをきて、一生けんめいがんばっておどっていた。パパは1ばん下のいもうとといっしょにおどった。ママは、ゆかたをきて、おどった。おどりがおわると、ぼんおどりほぞん会からごほうびで、ジュースけんをもらえたからうれしかった。家ぞくみんなで同じおどりをおどれて、気もちよかった。

次に、ぼくは、1人で大声コンテストにさんかした。ぼくは大声コンテストに出るのは3回目だ。毎年入しょう出来ずくやしい思いをしていた。今年こそ、ゆうしょうをねらっていた。まつりに行く前にさけぶことばをきめていた。さん加しゃは、15人くらいで1人づつやぐらの上で自分がさけびたいことをさけんでいって、デシベル計ではかってもらった。数ちが大きい上から3人がひょうしょうされる。ぼくのじゅんばんは、7ばん目だった。じゅんばんがくるまで、どきどきしていた。いよいよぼくのじゅんばんだ。きめていたことばを力をふりしぼっていきおいよくさけんだ。

「ゆうしょうするぞー！！」

けっかは、108デシベルで、ねんがんのゆうしょうをかちとった。1ばん大きい大人がかた手ではもてないくらいのおもいスイカをもらえた。ねんがんのゆうしょうが出来て、うれしかった。やぐらの上から見えなかったけど、家ぞくみんなは、おうえんしてくれたようだ。やぐらから下りてきたぼくに、

「よくかんばったね。よかったね。」

と、パパやママがほめてくれた。そして、まつりに来ていたおばあちゃんは、ごほうびにもう1回スーパーボールすくいをやらせてくれた。家ぞくがおうえんしてくれたり、ほめてくれたりして大声コンテストにさん加してよかったと思えた。

家ぞくがいたから、まつりを楽しめた。まつりのさいごにうち上げ花火がたくさん上がった。とてもきれいだった。来年も家ぞくみんなでまたこの花火を見たい。



入選 ぼくの家ルール

東広島市立三ツ城小学校

3年 古田 知大

ぼくの家には、ルールがあります。それは、「兄弟仲良くして、けんかをしないこと。」というルールです。このルールは、お父さんはかんたんだというけれど、兄弟全員が仲良くするのは、なかなかむずかしいです。

ぼくは、6人兄弟の4番目です。兄弟は、社会人のお姉ちゃん、中学生のお姉ちゃん、小学6年生のお兄ちゃん、小学2年生の弟、年長の弟です。

社会人のお姉ちゃんは東京に住んでいて遠いので、たまにしか帰ってきません。帰ってくると、ぼくにとってもやさしくしてくれて、甘えさせてくれるので、帰ってくるのがいつも楽しみです。5人の兄弟とは一しょにくらしていて、人数も多く、いつもだれかが原因を作るので、それを注意したりすることでも、よく言い合いになったり、けんかになったりします。自分たちの思いや意見を言い合うだけで、相手のことまで考えられないともめごとが起こることが多いです。だれか1人でも、自分のことばかり考えていると、みんなが気持ちよく過ごせません。みんなが協力しないといけないので、「兄弟仲良くして、けんかをしないこと。」というルールはむずかしいのです。特に弟たちは、自分の思うようにならないと泣いたり、ぐずったりします。ぼくはずるいなとよく思います。

このルールが守れない時は、「みんな1人ずつになるよ。」とお父さんが言います。ぼくたちはけんかもするけど、すぐに仲直りができて、とっても仲良しです。毎日、一しょにはしゃぐことが出来てとても楽しいです。お母さんからは、

「いつも、しゅうがく旅行みたいね。」

とよく言われます。お母さんから見ても楽しそうという意味だそうです。

もし、兄弟が一しょにくらせなくなって、1人になったらとそうぞうすると、さみしくなります。1人ずつになるぐらいなら、少しぐらいのわがままは許そうという気にもなります。

「兄弟仲良くして、けんかをしない。」というルールは、ぼくたちが大きくなっても、お互いに助け合って生きていってほしいというお父さんの願いが込められていることを知り、ルールを守れるようにしようと思いました。

ぼくは、相手がまちがっていると思うことは、なかなか許すことができずに、強い言い方になったり、手がでてしまうことがあります。そんな時、お母さんからは、もっと言い方に気を付けるように、手は絶対に出さないようにと注意をされます。分かっているつもりでも、なかなかできません。しかし、ぼくたち兄弟は相手の良いところさがしは得意です。たまに、良いところを言い合うと、気持ちがやさしくなり、気分が明るくなります。けんかしそうになった時は、みんなで、相手の良いところさがしをしていこうと思います。

入選

母に伝えたい「ありがとう」

東広島市立三ツ城小学校

4年 ^{たか}高 ^{まつ}松 ひなた

わたしの家族は、父、母、兄、わたしの4人家族です。父はけい察官として働いています。母は家に田んぼや畑があるので会社で働いていません。

夏休みに入ったある日、わたしは母に言いました。

「お母さんは、宿題がなくていいよね。会社にも行ってないし、この家で一番楽よね。」

「ひなちゃんは、お母さんのことをそんな風に思っとるんじゃないね。」

母は、少しおこったように言いました。

その日、母は午前中は田んぼの仕事をし、昼食を作ってわたしと兄と食べて、午後からは、急いで買い物に行って帰ってきました。夕食は「オムライス」だったので、わたしも材料を切る手伝いをするようになりました。ウィンナーを切っていると中、わたしは、

「ああ、つかれた。」

と母の方を向いて言いました。すると母は、

「ひなちゃん、お母さんの仕事は楽じゃって言ってたじゃん。」

と言いました。わたしは、心の中では、毎日ごはんを作ることは、大変だと思っていたけど、母に

「お母さんはいつもやっていてなれているからかんたんでしょ。」

と言いました。母は

「またそんな言い方する。」

とおこって言いました。

母の生活をふり返ってみると、朝は父のべんとうを作るので家族の中で一番早く起きてじゅんぴをしています。わたしが起きた時には、朝食は出来ています。それから、せんとく物をほして、そうじ、田んぼの仕事、夏休みはわたしと兄の昼食を作り、夕食も作り、みんながねた後、アイロンをかけた後、宿題のチェックをしたりしてさい後にねています。しかも、会社で働いている人のように、給料はありません。休みの日もありません。給料も休みもないのに、家族のために一生けん命働いてくれています。そのおかげで、わたしは自分のことだけしてもこまらないことに気づきました。

母に「一番楽をしている」と言ってから日にちがたちましたが、わたしは、まだ母にあやまっています。心の中で思っている、す直になれない自分がいます。いつになるか分からないけど、母に

「いつもありがとう。」

と伝えることが出来たらいいなと思っています。



入選

はなれていても感じる家族愛

東広島市立小谷小学校

4年 ^{なが}永 ^み見

こころ
心

「カープなんか負ければいいのに。」

去年の9月26日、カープが大すきなぼくがテレビに向かって発した言葉だ。

本当は言いたくなかったけれど、あることが理由で言ってしまった。それは、その日がカープのリーグゆう勝がかかるし合となり、それを弟とお父さんが2人で球場観せんに行っていただけだった。たまたまだが、次の日のチケットもあり、その日はぼくが球場に行くことが前から決まっている。まさか、リーグゆう勝がかかるし合になるなんて、ぼくはふくざつな気持ちでテレビを見ていた。

し合は、カープがどんどん点を取りリードを広げるてん開となった。テレビの中のカープファンは大もり上がり、ぼくも最初は調子良く見ていたけれど、だんだんとお母さんと2人きりの家の中は静かになりまるでカープが負けているかのような感じになっていきました。

それは、ぼくが球場に行っていないくやしさをライラで、テレビやお母さんに向けてひどい言葉をぶつけていたからです。さらに言い続けていると、

「気持ちよくおうえんができないなら、テレビを消しなさい。」

いっしょにおうえんしていたお母さんも、ついにおこってしまいました。おこられたことというな思いで、ぼくはなみだがポロポロとあふれ、テレビを見る気力もなくなっていた時、1本の電話が鳴りました。

おばあちゃんからでした。ぼくが球場へ行っていないことを知っているおばあちゃんが、心配してかけてきてくれたのです。しばらく話をして、ぼくは気持ちが落ち着きいつの間にかなみだも止まっていました。球場にいるお父さんも心配して電話をくれました。

みんなはなれた場所からでも、ぼくのことを心配し気にかけてくれているのがとてもうれしかったです。

それからは、え顔にもどりいつも通りにおうえんができました。

ゆう勝のしゅん間は、お母さんといっしょに喜びました。そして、どう上げやうれしそうな顔の選手やファンの人たちを見て、お父さんや弟も喜んでいるのかなと思うと、ぼくも心からうれしかったです。

次の日、お父さんは、

「今日は、球場でいろいろ楽しもうね。」

と言ってくれ、その日のし合は負けてしまったけどお父さんのやさしさをいっぱい感じることができました。

このように家族とは、近くにいても遠くにいても、どんなじょうきょうでもおたがいに思いやれる大切なそんざいなんだと思います。

ぼくは、自分のことばかり考えてしまう所があるので、人を思いやれるやさしい心を持った人になっていきたいと思います。

入選

思い出の登山

東広島市立寺西小学校

5年 喜々津 輝 季

この夏休みのお盆に、家族で福山のおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんの家には、い

とこがいました。久しぶりにみんなで集まりました。そこでおばあちゃんが、

「みんなで山登山に行こう。」

と言いました。その山は、1年生の時におじいちゃんと最後にいっしょに登った山です。

ぼくのおじいちゃんは、ぼくが1年生の1月に、病気で亡くなってしまいました。おじいちゃんとは、ぼくが小さい時からいろんな所にたくさん連れて行ってきて、ぼくが2才の時に、初めて登山をした時もおじいちゃんがいっしょでした。その山は、福山のおばあちゃんの家近くにある蔵王山という山です。小さい頃からおじいちゃんおばあちゃんの家へ泊まりに行くと、必ずみんなでこの山に登山をしに行っていました。

おじいちゃんは、ぼくが1年生の時、病気が悪くなり、体調が良くない時が増え、横になっていることが多くなっていました。それでも、体調が良い時におじいちゃんに会いに行くと、笑顔でやさしいいつものおじいちゃん、いっしょに出かけたりもしました。そして9月ぼくの家族といとこの家族がいっしょにおじいちゃんちへ泊まった日がありました。その時に、ぼくやお兄ちゃんやいとこたちとで、おじいちゃんに、

「いつも行く蔵王山に山登山に行きたい。」

とお願ひしました。きとおじいちゃんは、体調があまり良くなかったかもしれないけど、いっしょに山登山に行きました。それがおじいちゃんと最後の山登山になりました。

それから5年がたち、この夏、おばあちゃんとぼくの家族といとこの家族で、おじいちゃんの写真を持って、思い出の蔵王山に山登山をしました。山の道や頂上からの景色は、5年前の頂上からの景色と変わっていませんでした。ぼくは、おじいちゃんのことを思い出されました。もうおじいちゃんとは、いっしょに蔵王山に登ることは、できないけれど、思い出がたくさんつまった山なので、これからもみんなで蔵王山を登り続けるとお願ひしました。

とても思い出深い登山となりました。

入選

家族のきずな

東広島市立西条小学校

5年 福原希空

今、私は母と兄と3人でくらしています。そして、父は昨年の12月末から仕事の関係で、3年間の予定でベトナムのホーチミンに行っています。

私は、父からベトナムへ行く話を聞いた時は不安よりもさみしさを強く感じました。父は準備に忙しくてあっという間に出発の日がやってきました。ちょうど年末であわただしい中で、旅立ちました。

日本に残った母は子ども2人を育てるのに、いろいろと大変だと思います。それでも母は、「お母さんには、あなたたちがいてくれるけど、お父さんは慣れない場所で1人でくらすのだから、大変だと思うよ。」

と父の心配をしていました。私はその言葉を聞いてさみしいと思うのは止めようと思いました。なぜなら母は内心はとても不安なのに、私たちに心配をかけまいと、それをかくしていると感じたからです。

私と兄は、母の負担を減らすため、家の手伝いを今まで以上にがんばろうと決意しました。私が食事作りや、かた付けの手伝いをして、兄はそれ以外の家事の手伝いをしています。母は、

「2人が手伝ってくれるからすごく助かるよ。」と喜んでくれます。だから私たちは父がいなくて出来なくなったことを、がんばっていこうと思っています。

今は通信技術が発達していて、海外との連けいもいろいろな手だんがあります。だから、私は、よくベトナムの父とパソコンを用いたテレビ電話で話をしています。日本の様子やベトナムの様子について情報交かんをしています。だから、それほどさみしさは感じないのですが、土日や祝祭日に友達が家族みんなでどこかに行った話を聞くとうらやましいなと感じることもあります。

父は年に数回は日本に一時帰国します。しかし、ベトナムと日本の休みの日は違うので正月やゴールデンウィーク、そしてお盆も帰ってくる事ができません。母は私の大好きな野球観戦に連れて行ってくれます。父がいないと中々遠くには行けないので帰国して、どこかに連れて行ってもらえるのを楽しみにしています。この前、父が帰国した時は運よく運動会の時で、鼓笛や選手リレーを父に見てもらう事ができました。父は、

「とてもがんばったね。大活やくしよったね。」

と喜んでくれました。

父の実家は、農家で祖父も祖母も高れいなので、父が手伝っていたのですが、父がいなくなって母も、私や兄も、田植え等の農作業も手伝っています。

父がいなくなって半年以上が過ぎ、そんな生活にも慣れてきました。さみしい思いは、変わらないけど、兄と協力してこれからも母や祖父母を助けていこうと思います。



入選

ひいじいちゃんの赤い梅

広島市立宇品小学校

5年 藤井 舞 桜

祖母宅の裏庭の斜面に、真っ赤な梅が咲いた。リンと咲きほこる梅を見ていると、そう祖父の声が聞こえてきそうである。

土砂災害にあったとき、祖母宅の裏庭に面している斜面が崩れた。そう祖父母の寝室目前まで土砂が流れ込んできた。寝室の前に、農作業をするための小屋があったので、土砂は、その小屋を一飲みにした。小屋のおかげで、土砂は、寝室までは来ず、そう祖父母は命拾いをした。

つぶされた小屋を新築した後、斜面には、そう祖父が梅の木の苗を植えていた。

「この梅が、家を守ってくれる。春にはきれいな花を咲かせ、みんなを笑顔にしてくれる。」
と言いながら、毎日こつこつ植樹していた。足腰が痛いと言うのに、急斜面で踏ん張りながら、二度と土砂崩れが起きないように、家族の安全を祈願しながら、一本一本心を込めて植えていた。斜面いっぱい植えられた苗木は、毎年、少しずつ生長していった。

「全部の木に花が咲いたら、こりゃあ見事いぞ。」

と、そう祖父は、梅の花が咲くのを心待ちにしていた。

それなのに、そう祖父は、梅の花を見ずに、永眠した。梅雨の時期であった。

そう祖父が亡くなって最初の春、梅の木は初めて実をつけ、開花した。どの梅の木も真っ赤な花を咲かせた。それはそれは美しく、そう祖父と一緒に見たかったと思った。そう祖父を恋しく思いながら見ていると、梅の木の間から、そう祖父が笑って立っているような気がした。私は、ひいじいちゃんが、梅になって家を守ってくれているんだなと思った。

毎年、開花を楽しみにしていたそう祖父が、お墓に入って初めて咲いた梅の木々。この梅の木を見るたびに私は、そう祖父を思い出す。

ひいじいちゃんの梅の木、それは元気だった頃のそう祖父の大切な思い出である。毎年春になると、そう祖父に会えると思うと、私は、とてもうれしい。

竹原市立竹原中学校

1年 甲 斐 芭 瑠 真

僕は、5歳年のはなれた兄がいます。兄は、相撲をやっています。小学校を卒業して相撲留学で中学校の時から鳥取県で寮に入り生活しています。兄の寮生活が始まり6年が経ちました。兄は今の僕の歳の時から、

「親元をはなれ生活していたんだなあ。」

と思うとすごい一言です。寮生活といえば聞きなれた言葉でみんなと一緒にワイワイ生活するというイメージしかありませんでした。でも現実とは全然違うものでした。勉強はもちろん、自分の身のまわりの事、相撲などやらなければいけない事だらけでした。それにつけ加えて家族と一緒にいられないさみさがすごくつらそうだったのを覚えています。何回も体調をくずしたり、ひどい時には入院をした事もありました。

兄はその生活を少しずつのりこえて、今は鳥取城北高等学校の3年生になっています。

兄が通っている城北高校は、強ごうといわれる学校で日本一を何回もとっている学校です。兄は、ひざのケガをして2年前に手術をして1年間相撲をとらずリハビリ、筋トレをがんばりました。そして今年のインターハイのレギュラーを決めました。城北高校は、準優勝というすごい成績をおさめました。

僕も小学校の時から相撲をやっています。小学生の時は、中国大会で優勝や入賞をした事もありました。その時は兄の背中がすごく近く思え、もう少しで手が届くと思っていました。でも今、中学生になり兄がすごい進路を決めた時と同じスタートラインにたった時に兄ののりこえてきた事のすごさを実感しています。兄は僕が相撲の大会で結果が出せなかった時にこうアドバイスをしてくれます。

「そんなに簡単に良い結果が出せれば誰も苦労はせん。まず自分の出来る基礎基本をしっかりとやっていたら、必ず結果はついてくる。だからあきらめずにがんばれ。」と。

僕は試合で負けた時、つらいけい古の時、この言葉を思い出しがんばるようにしています。

けい古がつかった時は、心が折れそうになります。もうやめたいと思った事は何度もあります。でもあきらめず今もまた相撲を続けている理由は兄の背中に少しでも近づきたいからです。僕にとっての目標は、中学大会や全国大会で一つでも多く勝てる事もあるけど、兄と対等に相撲を取ることです。今は全く相手にもならないけど、いつか兄に、

「なかなかやるなあ。ちょっと強くなったんじゃない？笑」

って言わせる事です。

兄の背中に近づき追いこすために、つらいけい古、基礎基本をしっかりとがんばりたいと思います。

入選

家族の夢を叶えた妹

東広島市立中央中学校

1年 かわのとしまさ
川野稔真

僕には5才離れた妹がいます。僕と妹は仲が良く、楽しいことを思いついて一緒に遊ぶことが一番の楽しみです。僕ががっかりしている時や、寂しい時、妹はいつも、

「一緒に遊ぼう。」

と声をかけてくれます。僕はその声を聞くといつも嬉しい気持ちになります。

僕と妹は、性格も得意なことも違います。僕は暗記が得意ですが、妹は漢字を覚えることが苦手です。妹は走ることが好きですが、僕は苦手です。

今年の4月、母が妹に、

「今年はリレー選手になってよ。」

とお願いしました。その理由は、去年の運動会の徒競走で、妹が一番になったからです。奇跡がおきたらいいな、と僕も妹に、

「運動会のリレー選手になって欲しい。」

とお願いしました。もちろん父も、

「リレー選手になって走る姿を見たいな。」

とお願いしました。

僕が小学2年生の時、足が遅く、運動も苦手でした。そんな嫌な思い出が、なくなるような気がしました。妹が家族の夢を叶えるため、練習することになりました。

それから妹は、毎日、家の前で走る練習を始めました。父と母が仕事から帰ってくるのが夕方なので、それから家族で練習です。家の前の道路に、走り始めの線をチョークで書きます。小刻みに走るための線もチョークで書きます。どうしたら速く走れるようになるか、父がインターネットで調べて練習に取り入れることもしました。姿勢をよくすること、前をまっすぐ見ること、スタートダッシュの練習、僕も妹と一緒に走りました。妹は足が速く、少し気を抜くと抜かれそうになります。僕も本気で走りました。

リレー選手を決める日がいつか分からないまま、できる日にできることをやっていました。5月の始め、妹が学校から帰ってきて、

「リレー選手になったよ！」

と笑顔で教えてくれました。家族で大喜びしました。

それから学校で、リレーの練習が始まりました。リレー選手は速い人ばかりで、妹は練習の時に3人も抜かれてしまいました。リレー選手に選ばれたから嬉しいと思っていたのに、運動会の当日抜かれてしまったらどうしよう、と家族で心配になりました。不安な気持ちを抱えたまま練習を続けていくと、

「今日は誰にも抜かれなかったよ！」

妹は練習の時に抜かれなくなりました。これだけ練習したから、もし抜かれてしまっても大丈夫だよ、と家族で背中を押しました。

そして、運動会の当日、最後の種目がリレーです。運動場に大きな声援が響き、トラックの周りに人がたくさん集まっています。妹は緑色の四番のゼッケンをつけています。妹が走り始めたとき、僕は妹の名前を大声で叫びました。走る姿がとてまかっこよく、嬉しくて清々しい気持ちになりました。そして、誰にも抜かれることなく、三番で渡されたバトンを三番で渡しきることができました。

「ドキドキしたけど、リレー選手になることができて嬉しかったし、楽しかった。また来年もやりたい。」

と妹が話してくれました。家族が笑顔になりました。

僕は妹から、努力すること、最後までやりきることの大切さを学びました。夢に向かって頑張れば結果はついてくる、次は僕が家族の夢を叶えられるように努力をしていきたいです。

入選

寮生活をして気づいたこと

広島県立広島叡智学園中学校

1年 黒木 碧恵

私は中学生になり、島にある全寮制の学校に進学しました。家族とは海を隔てたところで生活しています。寮生活を始めたときはホームシックになりとても辛かったです。でも私は今、家族とはなれて暮らす寂しさを少しだけ乗り越え学んだことがあります。

4月、いつも一緒だった家族は側におらず、周りにも知った人はいません。そんな中で新しい生活が始まりました。いつも当たり前のように一緒に生活していた家族が近くにいないことが寂しくて、心の一部が欠けてしまったような気持ちになりました。私は一人っ子で、いつも両親を頼っていたんだと思います。毎日毎日、寮から自分の家のある方角を眺めては（父さん、母さん今何しようんじやろう。）と思い、対岸が見えては（海を渡りたいな。家に帰りたいよ。）とつぶやくこともありました。私は一人ぼっちになった気がしました。

しかし、そんな辛い時にも心の支えになってくれたのは、家族でした。私は毎晩両親に電話をして、今日の出来事を伝えます。はじめはホームシックで泣きながら電話をしたこともありました。そんな時両親は、いつも気遣ってくれました。いけない事をしたときには、電話から叱ってくれました。そして、私が電話をかけてくるのを毎晩心待ちにしてくれています。私は（今日は両親に何を話そうかな。）と思いながら学校生活を送っています。今日も一日頑張ろうと思わせてくれる両親は、まるで私を見守ってくれている太陽のような存在だと思いました。

寮生活では、洗濯や身の回りのことは全て自分でやらなくてははいけません。時間の制限もあり、自分のタイムスケジュールを管理する必要があります。友達との関係も、気分をつかうこともあります。今までいろんなことを親にやってもらっていた私は、慣れるまでとてもきつかったです。

誰もが成長するに連れて、特に思春期には親に反抗的な態度をとってしまったという経験があると思います。私もついつい厳しい口調で反発したことがあります。でも、両親と離れて暮らしてみると、その反発は私が甘えていたからだと気づきました。

照れくさくて言いにくいこともあるけれど、両親には感謝の気持ちを伝えたいです。これからまだ6年間寮生活は続きます。今は両親が一番だけれど、そのうち私も成長して両親と話す機会が減っていくかもしれません。けれど、いつも私を応援し、気にかけてくれることへの感謝と、遠く離れていても心はつながっているという絆を持って、自分らしく頑張っていきたいです。

入選 一つ

呉市立東畑中学校

2年 朝 重 佳奈子

最近いつも母と父がけんかをしている。ささいなことですぐにもめている。父はケンカをしたら、
「わしゃ、出て行く。」

と言うけれど、車の中で1時間くらいテレビを見て時間を潰してから家に戻ってくる。すると母は、
普通に

「お帰り。」

と言う。

また、あるときは、家事をしている母に、

「手伝ってあげよう。」

と父が言うと、

「手伝ってあげようじゃなくて、手伝うのがあたりまえじゃろ。そうやって偉そうに言うところが嫌いなんよ。」

と母が言い返し、またケンカになっていた。

私は、こんな場面を見るたびに、なぜケンカになるのだろう、面倒臭いと思う。2人はケンカを
すると機嫌が悪くなるので、姉と私はいつもとばっちりを受ける。急に怒鳴られたりする。スト
レスがたまる。なぜあの2人は結婚したのだろうと思うけれど、それがなかったら私は存在しない。

母は「お父さんとは気が合わん。」とよく言っているが、私はそうは思わない。父と母は私や姉
の昔の話をするとき、2人ともいつも同じ笑顔で優しく微笑んだ顔をしている。私と姉が話して
いるときも、同じ表情で話を聞いてくれる。父が面白いことをしたときに最後まで笑い続けている
のは母だ。そして、母に何かあったときに一番に駆けつけるのは父だ。

たくさんケンカをしているけれど、そのぶんお互いに共通するところがあるから長い間パート
ナーとして続いているのだと思う。

父と母は、私や姉のことになるといつも真剣になってくれる。私は赤ちゃんの頃は病弱で、ほぼ
毎日通院したり入院したりしていた。父と母は、かなり苦労して私を育ててくれた。今でこそ、元
気な体になり、病院に行くこともなくなったが、私にとって2人はスーパーマンだ。

私の家族は、たとえどんな試練が待ち受けていようともきっと乗り越えていける。家族はお互い
のことを考えないと絶対に続きはしない。ケンカをしているのは仲が悪いのではなく、家族だから
こそ、言いたいことを言えるのだと思った。私はこの家族に生まれてこれて本当によかった。将来、
私が結婚したら2人のような夫婦になりたい。思いやりがあって支え合って生きる家族になりたい。
そして、全力で子供を守って生きたい。

だから今、家族と一緒に過ごす日々を大切にしたいと思う。今、私が感じている幸せを我が子に
注ぐために。

入選

もしも…

広島市立五日市中学校

2年 ^{なが}永 ^い井 ^す珠 ^ず々

家庭について日頃思っているわけではないが時々、ふと思うことがある。

“もしも、かあさんが亡くなってしまったら”こんなことを考えるのは縁起でもないが、親をなくした子供のニュースを見るとあれが自分におきたら…と考えてしまうのだ。

私はこの間夢でそんな夢を見た。起きたとき私の頬はぬれていた。涙だった。夢のことであっても泣いていたのだから本当におきてしまったらそんなものではすまないだろう。母さんが大好きだから。自分よりも長く生きてほしいと思っているから。

何日か経って母さんにそのことを話してみた。母さんはこう言ってくれた。

「大丈夫。今はそう思うと思うけど、いざその時がきたら珠々ならきつと乗り越えられるよ。」

「無理な気がする。一生立ち直れんかも。」

「その頃には珠々にも新しい家族が居るから大丈夫。」

そういう会話後私は母さんがそう言ってくれてうれしかった。ホッとした。でも私の中にある不安は完全には消えてくれなかった。自分でもしつこいなと思うけど、母さんが話してくれたのは私が大人になってからのことだった。母さんは自分が私が大人になってから死ぬと思っている。当たり前だ。私自身も先ほど言ったように自分より長く生きてほしいと思っている。しかももしも私が成人する前に亡くなってしまったら…そんなことはないと思うが、その“もしも”が起きたときが怖い。この不安は母さんがあと何十年も生きていることが保証されれば消えると思う。欲張りだ。そんなの絶対に保証されないのに。「人は生まれたときから何年生きられるか決まっているそれを変えることはできない。」そんなことを誰かが言っていた。それを聞いて私は思った。“何年生きるか決まっていますそれを変えることができないのなら、生きている間にたくさん思い出をつくれればいい。”

大切な人を失うのは本当につらい。それが自分の親ならなおさらだ。そもそも私がもしも母さんが亡くなったらと考えるようになったのは、あおり運転をされその車と衝突し母、父、娘のうち娘一人生き残り母と父は死亡してしまったというニュースを見て、その家族は事件がおきるとは思っていなかっただろうと思った。そして一番つらいのは一人残された娘である。まだ17歳ほどののに両親をなくしてとてもかわいそうだった。

明日が必ずあるとは限らない。だから母さんと過ごせる日々を大切にしていこうと思う。“もしも”のことがあってもそれを乗り越えられるように。



入選

今を精一杯生きる

東広島市立中央中学校

2年 北^{ほう} 條^{じょう} 羽^は 菜^な

7月7日、ちょうど七夕の日、93歳の誕生日を目前にして、ひいばあちゃんが亡くなりました。悲しい出来事だったけれど、私はそこから多くのことを学ぶことができました。

ひいばあちゃんが入院したのは、5月のことです。中学に入ってから祖父母の家に行く機会が減っていた私は驚きましたが、近くにある病院だったので、よく会いに行きました。前より体の自由はきかないようだったけれど、元気そうで安心したのを覚えています。1か月もしないうちに退院してからは、訪問看護師の方に来てもらって治療していました。最期は家で、とひいばあちゃんが言っていたからです。私の母も訪問看護師で、私の知らない間に、仕事の合間をぬって通っていたそうです。しかし、3週間ほどして食事を摂らなくなり、容体が急に悪化しました。

ひいばあちゃんが亡くなったその日は、いとこやら皆が集まってにぎやかでした。母が母の妹や弟に「1か月中に会いに来たほうがいい」と連絡したところ、すぐに集まってきたそうです。私が行ったとき、ひいばあちゃんは「ヒーヒー」と息をしながら、すっかり変わったその姿にただ茫然とするしかありませんでした。

それから数時間後、いとこの遊び相手をしていた私のところへ、訪問看護師の方が呼びに来ました。急いでひいばあちゃんのいる屋敷へ行くと、すでに皆が集まっていました。ただならぬ雰囲気、もしかして…、と嫌な予感を必死でかき消しながら中へ入ると、ひいばあちゃんはいつもと変わらぬ様子で寝ている、かのように見えました。しかし、そこに数時間前のような「ヒーヒー」という音はなく、すでに息を引き取ったのだと分かりました。母が、

「ばあちゃん、ごめん。私が動かしたのが悪かったんかもしれん。ばあちゃん…。」

と叫ぶように言い、体をゆさぶっても、ひいばあちゃんは動く気配を見せません。どんなに呼びかけても応えることのないその姿が、私に初めての「死」を突き付けました。それと同時に、命というものは何てあっけないのだろうか、と今生きていることを不思議に感じました。いとこはまだこの状況を理解していないようだったし、私よりひいばあちゃんと過ごしてきた年月の長い大人は落ち着いていて、今自分が泣くのははばかりられるような気もしたけれど、それでも涙が止まりませんでした。

ひいばあちゃんのことを思い出すと、浮かぶのは優しい笑顔ばかりです。会いに行くと、いつも「よう来たねえ。」と迎えてくれました。顔に刻まれたシワは、今までたくさん笑ってきた証のように思います。それから、戦時中の話をしてくれたこともありました。ひいばあちゃんが学生だった頃は戦争の真っただ中で、飛行機や鉄砲をつくったそうです。戦争を知らない世代に伝えていくために、今となっては、もっと話を聞いておけばよかったと思います。

大切な人の死を目の当たりにして、今生きていることは当たり前ではないと強く感じました。だから、この今を精一杯生きていきたいです。そして、周りの人がいてくれることも当たり前ではないので、家族、友達、…自分のことを支えてくれている人に、自分の言葉で感謝を伝えていこうと思います。

入選

感謝の気持ち

東広島市立松賀中学校

2年 向井 亜紗実

私のおじいちゃんは、去年の6月、がんが見つかりました。その時に、医者から

「短くて半年、長くて1年でしょう。」

と余命のようなことも言われたそうです。おじいちゃんの体の状態が悪いことを目の当たりにしたお母さんは、体の状態を私達家族に話しながら、涙をこぼしていました。それを聞いた私は、突然の事態に理解できず、そのことを信じたくなくて、嫌で嫌でたまらなくて、大粒の涙がこぼれました。いつかは誰もが死んでしまうと分かっているけど、身近な家族にそれが迫っていると思うと、たまらない気持ちになりました。夏になると、網状のランニングに短パンをはいて、汗をふく白いタオルを頭にねじりはちまきにしてる姿がトレードマークの元気なおじいちゃんです。私が幼い頃、夏休みに、子供達だけで泊まりに行くと、近くの川へ泳ぎに連れて行ってくれました。また、その川でアユやうなぎが捕れるので、夏休みの社会科研究のために、捕ってきて、体の仕組みを教えてください、おいしく食べる方法を教えてくださいました。秋になって涼しくなっても川に入ってアユやうなぎ、カニを捕って私達に食べさせてくれました。

私は今、部活でソフトボールをしています。おじいちゃんも、前にソフトボールでピッチャーをしていた事があるため、バットの振り方やボールの投げ方を教えてくださいました。電話した時には、

「部活、頑張れよ。」

といつも応援してくれます。とても優しいおじいちゃんのがんが、これまでの様々な思い出と共に、よみがえってきます。

おじいちゃんのがんが見つかったから、私のお母さんは、おじいちゃんのお診の日が来るたびに、おじいちゃん家に帰って様子を見るようになりました。薬や注射が良く効いているのか、医者の予想以上に、症状が落ちついているそうです。そして、今では、医者に言われた余命の1年を過ぎることができました。おじいちゃんの前向きな気持ちが、病気と戦っているのだと思います。今まで以上に、手紙を送ったり、電話したりして会話するようになりました。今からでも遅くはない、今私にできる事を精いっぱいして、感謝の気持ちを伝えようと思います。

日頃、お世話になっている人へ感謝の気持ちを伝えることができているか。人間は、いつか死んでしまいますが、その一度の人生の中で、感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。私の場合、おじいちゃんのがんが見つかったからですが、皆さんには、もっと普段から相手に思いを伝えてほしいと思います。感謝は、生きているからこそできることだと思います。短い命の時間の中で、さようならをする時には、悔いが残らないように、したいと思います。



入選 理想の家族

広島市立牛田中学校

3年 ^{やま}山 ^{しろ}城

れん
蓮

私が思う家族の理想は、一緒にいるとおちついて、何でも言えて、笑顔が絶えなくて、毎日、幸せで暮らせることです。

私は、5人家族です。父と母、そして2人の兄がいます。父と母は2人とも仕事をしていて、1人の兄は、大学生で、もう1人の兄は高校生です。父は、不定休の仕事で母も、土日は休みですが、平日は、帰りが夜遅いです。1人の兄は、大学生なので家を出て、県外で一人暮らしをしています、もう1人は、私と同じ受験生で、毎日塾に行っています。私の家族は、仲が良いですが、あまり話したりする時間がなくて、家では、食事とお風呂、寝るといったことしかしません。私の理想には、ほど遠いです。

しかし、受験生ということもあって、最近ニュースを見ます。すると、殺人や事故などといった事件があり、遺族の会見を見たりもします。私はそういう時、自分とおきかえてしまいます。自分だったらどうだろう。辛すぎて、会見なんかできないかも。と色々な想像をします。考えれば考えるほど、自分の家族が活着ていることの大切さを考えさせられます。

家族の理想なんていらないので。理想のような家族はすてきです。けれど、私は、この14年という短い人生の中で、自分の家族がいてくれて良かったということがかぞえきれないくらいあります。助けられたこと、楽しい旅行の思い出など、家族が私にしてくれたことが、私にとって理想だと思います。家族との一瞬一瞬が私の理想です。

誰でも、あたり前を忘れてしまうことはあると思いますが、家族が活着ているというあたり前は、忘れてはいけなくて、それは、あたり前ではないと思います。父や母、兄2人が私の家族でいてくれることが、私の一番の理想です。

高校生の兄にあることを言われたことがあります。私は、ときどき、父に強くあたってしまうことがあります。その時兄に、

「父さんに優しくしなよ。無理に優しくしろとはいってないんだけど、いつ父さんがいなくなるかも分からないだろ。俺だって毎日、自転車で学校に行ってるんだから、事故にあうかもしれないし、考えてみろ。」

そう言われました。縁ぎが悪いなと思いましたが、兄の言うことは、もっともです。だから、家族を、父を大切にしようと思いました。

理想なんてどうでもいい、家族5人が私にとって一番必要な存在です。

特選

三次市立みらさか小学校

2年 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{ゆう}悠 ^な菜



じいじのすいかがとってもおいしかったよ。

入選

しまねけんのたきをみにいったよ。



福山市立西小学校
1年 坂さか 口ぐち 莉央りお 夏な

家族のおうえんで、乗れたターザンです。



福山市立御幸小学校
3年 山さん 南な 璃り 歩ほ

東広島市立西条小学校

3年 みやのぶ そう だい 宮 信 聡 大



いとこの赤ちゃんと花火をしたよ。

呉市立昭和北小学校

4年 なか もと とし や 中 本 利 埜



家族みんなでバーベキューをしました。

みんなで一緒に食べるご飯が1番おいしい。



福山市立鳳中学校
3年 藤ふじ 原わら 春はる 奈な

令和元年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
4 後 援 広島県・広島県教育委員会
5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法
作 文 ・ 400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
・縦書きとし、はっきりと書いてください。
・題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。
図 画 ・ 作品は4つ切りの画用紙とします。
・画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)
・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
作品のコメントも忘れずに記載してください。
注意事項 ・ 一人1点に限ります。
・本人の作品で未発表のものに限ります。
・提出された作品は、返却しません。
・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
・図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、作文・図画それぞれ各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 令和元年9月4日(水)必着
9 送 付 先 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内
(公社)青少年育成広島県民会議
電話 082-513-2742/ F A X 082-511-2173
- 10 審査方法
(1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員が行います。
(2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
(3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び記念品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、1万円の図書カードを贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

審査員名簿及び審査要領

●作文の部審査員

藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
石田 睦子 三次市教育委員会社会教育委員
寺田 純子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
藤田 典生 北広島町立大朝中学校校長
宮尾 茂 広島県環境県民局県民活動課長

●作文の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 3 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 上位 20 作品程度を選定する。

2 審査の方法

(1) 事前審査

- ・小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・評点は 10 段階評価とする。
- ・特選を 10 点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選 3 作品を選定する。
- ・入選は上位 20 作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

(2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

●図画の部審査員

濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員
藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
宮尾 茂 広島県環境県民局県民活動課長
宮田 知典 広島県西部教育事務所教育指導課 指導主事

●図画の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 1 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 5 作品

2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は 1 学年ごとに, 5 点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校(低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選 1 点, 入選 5 点を協議により選定する。

令和元年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

番号	小学校の部 学校名	作 文								図 画								応募 総数	参加 人数
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	件・参加人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	部・参加人数		
1	廿日市市立平良小学校	1			1		1	3	3	4	2	1	1		2	10	10	13	13
2	広島市立亀山小学校									1	1	1				3	3	3	3
3	広島市立古田台小学校									1	2		3			6	6	6	6
4	広島市立高須小学校				2		1	3	3	2	2	1	2	2	1	10	10	13	13
5	広島市立伴東小学校		1				2	3	3									3	3
6	東広島市立西条小学校	5	5	5	2	5	5	27	90	5	2	5	5	3	3	23	35	50	125
7	東広島市立御園宇小学校									4	3			2	1	10	10	10	10
8	広島県立広島南特別支援学校						1	1	1									1	1
9	尾道市立向島中央小学校	4	4	5	2	5		20	55					2		2	2	22	57
10	福山市立春日小学校	1						1	1		5	1				6	9	7	10
11	広島市立南観音小学校									1						1	1	1	1
12	広島市立翠町小学校	1	3					4	4	5	5	4	1	2		17	22	21	26
13	東広島市立高屋東小学校									1	1	3	1			6	6	6	6
14	東広島市立下黒瀬小学校									5	4	4	2			15	26	15	26
15	広島市立可部小学校									5	3	2	3	2		15	21	15	21
16	広島市立宇品小学校	1	2	4	2	5	5	19	37	5	5	5	5	2	5	27	73	46	110
17	大崎上島町立木江小学校										1				1	2	2	2	2
18	呉市立坪内小学校									1						1	1	1	1
19	東広島市立板城小学校			1		1		2	3									2	3
20	東広島市立三ツ城小学校	1	1	5	5	5	5	22	38									22	38
21	庄原市立高小学校						2	2	2									2	2
22	熊野町立熊野第一小学校									1			1			2	2	2	2
23	熊野町立熊野第四小学校			1		1	5	7	18	5	1		5		1	12	20	19	38
24	広島市立緑井小学校						4	4	4									4	4
25	呉市立宮原小学校		1		2			3	3	1		1				2	2	5	5
26	福山市立多治米小学校	1						1	1	2	2	2	1			7	7	8	8
27	東広島市立小谷小学校			5	5	5	5	20	33	5	3	4	2	1		15	16	35	49
28	東広島市立板城西小学校					1		1	1		1	1	1			3	3	4	4
29	東広島市立高屋西小学校									5	5			2		12	18	12	18
30	広島市立楠那小学校			1		2		3	3	3	2		2		1	8	8	11	11
31	東広島市立吉川小学校			1				1	1									1	1
32	広島市立戸坂城山小学校					1		1	1									1	1
33	庄原市立高野小学校	1						1	1									1	1
34	三原市立糸崎小学校	2	2					4	50									4	50
35	福山市立御幸小学校		2				1	3	3	1	3	2		1	7	7	10	10	
36	東広島市立豊栄小学校			1				1	1		1	1				2	2	3	3
37	東広島市立龍王小学校		4	5	5	4	4	22	71	5	4	2	3			14	21	36	92
38	呉市立昭和北小学校				1	1		2	2	3	1	1	2			7	7	9	9
39	福山市立西小学校									4	2	3			2	11	11	11	11
40	大崎上島町立大崎小学校											1	1			2	2	2	2
41	広島市立吉島東小学校						1	1	1									1	1
42	東広島市立寺西小学校		5	5	5	5	5	25	49									25	49
43	庄原市立川北小学校					1		1	1									1	1
44	広島市立口田東小学校		1					1	1	5	2	1	1	1	1	11	11	12	12
45	広島市立大町小学校			2	2	1		5	5	5	5		1	1		12	16	17	21
46	三次市立みらさか小学校									1	3					4	4	4	4
47	呉市立安登小学校											1				1	1	1	1
48	尾道市立百島小学校			1		2		3	3									3	3
49	廿日市市立佐方小学校									5						5	100	5	100
50	広島市立牛田小学校	2		1	2	1	2	8	8	5	5	2	3	2	3	20	23	28	31
51	広島市立三田小学校				1			1	1									1	1
52	広島市立己斐小学校									2	3		1			6	6	6	6
53	広島市立高南小学校												1			1	1	1	1
54	広島市立大河小学校					1	1	2	2	4	1	1	1			7	7	9	9
	合 計	20	31	43	37	47	50	228	504	102	80	49	48	24	22	325	532	553	1036

令和元年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作 文					図 画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	計	図・参加人数		
1	東広島市立河内中学校	5	3		8	21						8	21
2	呉市立川尻中学校		1		1	6						1	6
3	竹原市立竹原中学校	2	1	2	5	5						5	5
4	広島市立安西中学校		5		5	10						5	10
5	東広島市立安芸津中学校	3	3	3	9	14						9	14
6	広島県立広島観智学園中学校	1			1	1						1	1
7	坂町立坂中学校	3	2	3	8	37						8	37
8	広島市立瀬野川東中学校	5	1	4	10	10						10	10
9	広島市立牛田中学校	5	5	5	15	83						15	83
10	熊野町立熊野東中学校	5	4		9	30						9	30
11	広島市立東原中学校	5	4	2	11	14						11	14
12	三原市立第二中学校		1		1	1						1	1
13	三原市立幸崎中学校	1	2	2	5	49						5	49
14	呉市立東畑中学校		1		1	2						1	2
15	呉市立呉中央中学校	4	3	4	11	11						11	11
16	広島市立大洲中学校	1	3		4	4						4	4
17	福山市立一ツ橋中学校						1		3	4	6	4	6
18	広島県立三次中学校	5			5	15						5	15
19	広島市立宇品中学校	5	5	5	15	67						15	67
20	庄原市立庄原中学校	4	4	3	11	25						11	25
21	竹原市立忠海中学校	2	3	2	7	15						7	15
22	東広島市立西条中学校	2	4	5	11	83						11	83
23	広島市立五日市中学校	2	5	2	9	97						9	97
24	東広島市立中央中学校	3	4	2	9	122						9	122
25	呉市立下蒲刈中学校	4	3	5	12	12						12	12
26	福山市立松永中学校		5		5	22						5	22
27	廿日市市立四季が丘中学校	5	3	2	10	20						10	20
28	呉市立警固屋中学校			2	2	3						2	3
29	呉市立片山中学校	5	2	1	8	8						8	8
30	広島市立高取北中学校	5	1	5	11	20						11	20
31	東広島市立志和中学校	5	3	4	12	14						12	14
32	広島市立亀山中学校								2	2	2	2	2
33	福山市立鳳中学校							3	3	6	6	6	6
34	広島市立城山北中学校	5	5	4	14	29						14	29
35	三原市立宮浦中学校	5			5	79						5	79
36	海田町立海田中学校		5		5	9						5	9
37	東広島市立松賀中学校	5	2	3	10	36						10	36
38	広島市立五月が丘中学校	3		3	6	10						6	10
	合 計	105	93	73	271	984	1	3	8	12	14	283	998

— 発 行 —

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511広島市中区基町10番52号

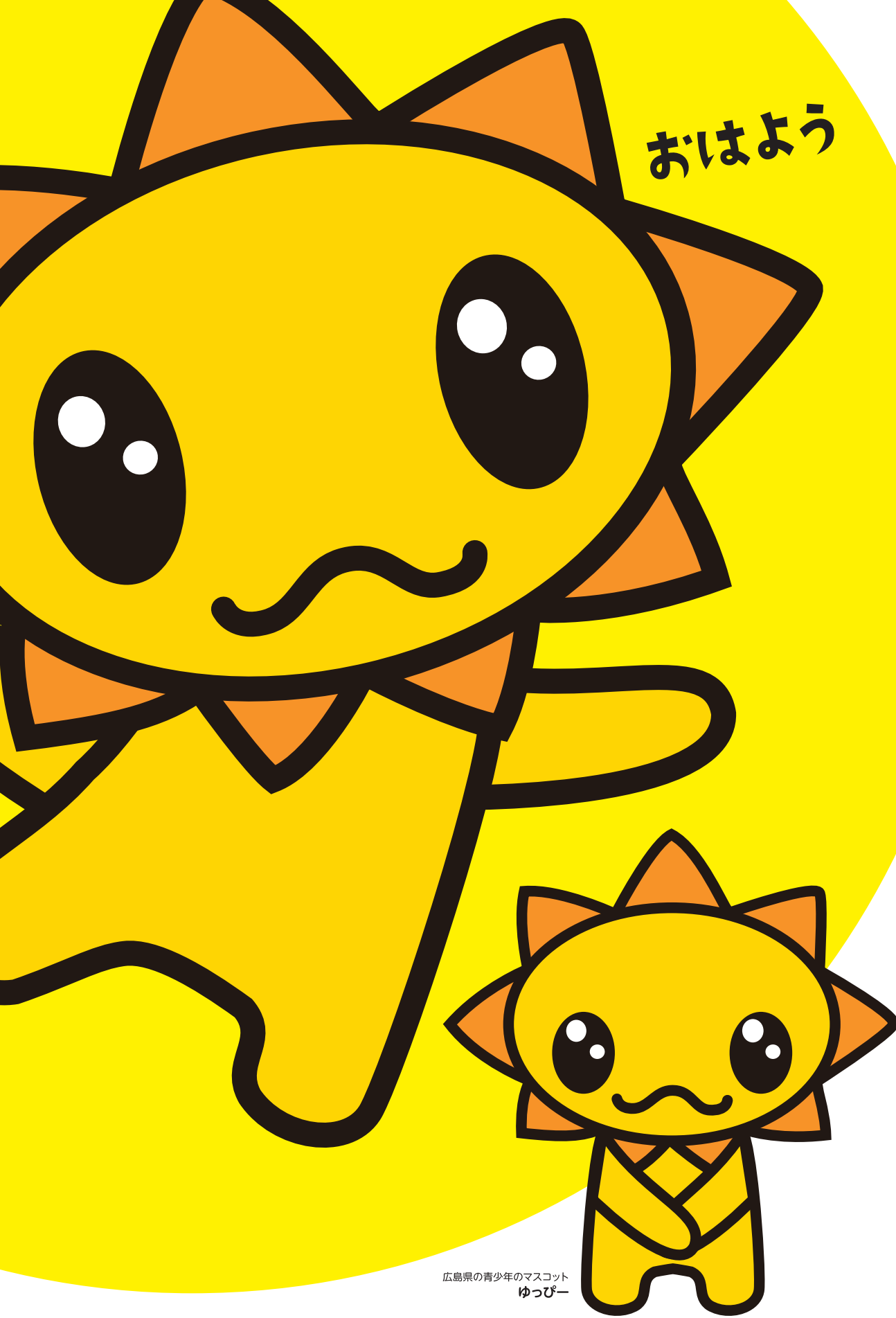
広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>





おはよう

挨拶あいさつをしよう。

挨拶あいさつから一日いちにちが始まり、
挨拶あいさつで一日いちにちが終わります。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー